

Beyond testing, beyond limits, for a sustainable future together

アンリツ株式会社

2026年5月



東証 プライム
証券コード：6754

<https://www.anritsu.com>

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

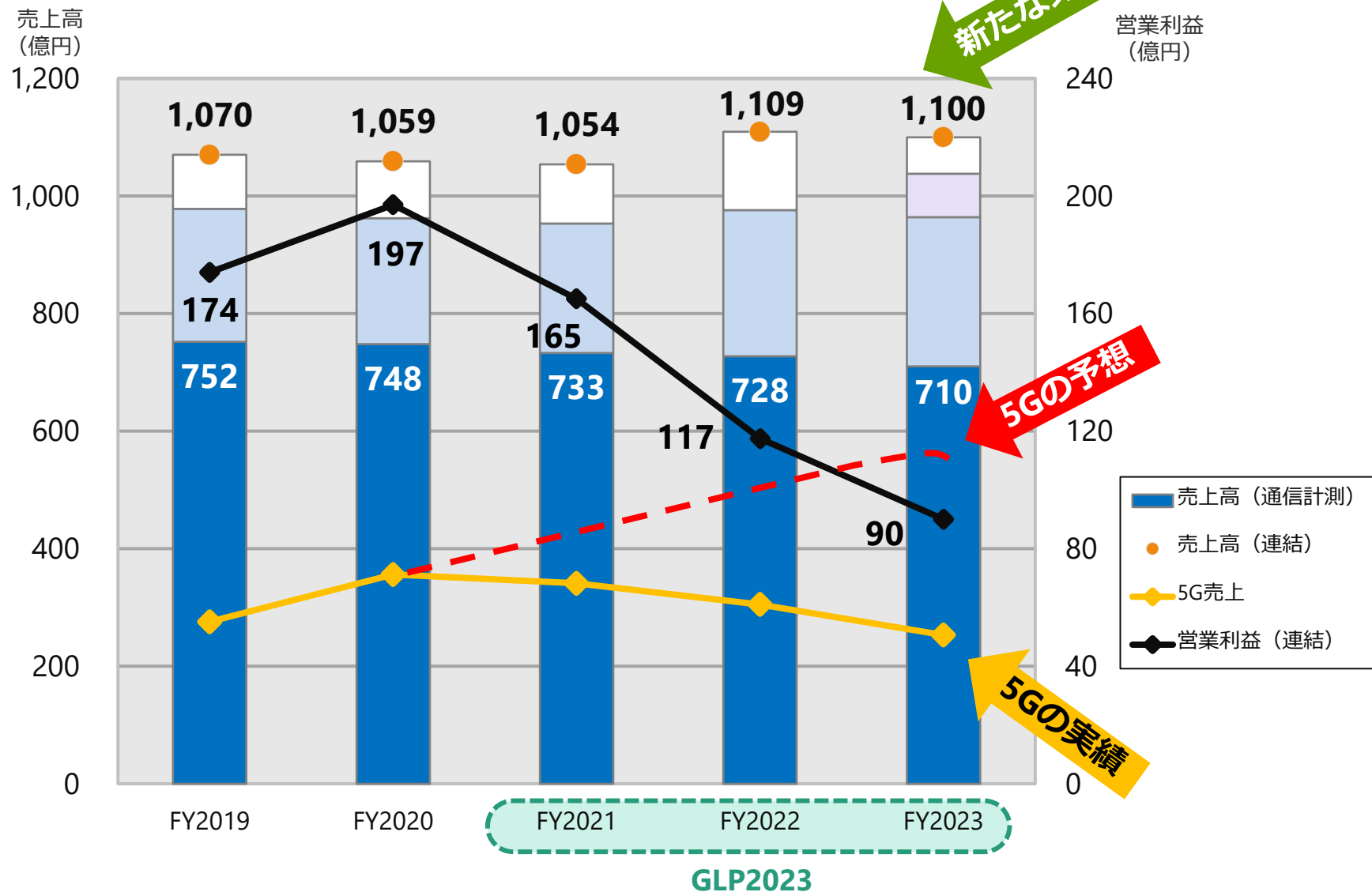
実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

1. 中期経営計画 GLP2026/FY2030の目指す姿
2. 事業概要
3. 通信計測事業
4. PQA事業
5. 環境計測事業
6. 2026年3月期 連結決算概要

1-1. 中期経営計画（GLP2023）レビュー



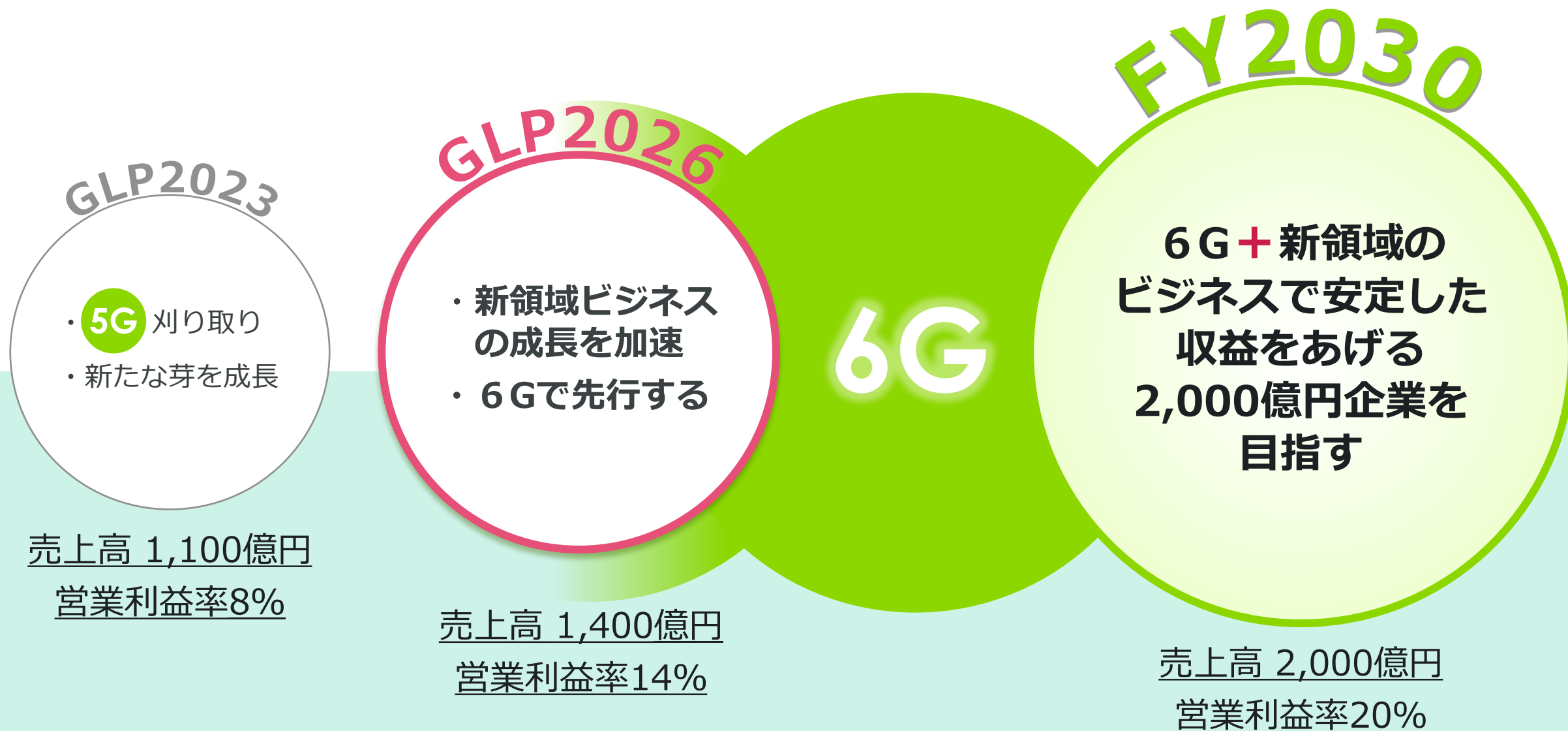
項目	成果
財務	売上1,100億円 営業利益90億円と 数値目標は未達も、 株主還元は計画通り実行 (配当性向：54%、 総還元性向：87%)
重点分野*	高砂製作所のM&Aにより EV/電池試験市場へ参入
通信計測	5G市場の縮小と世界的な インフレ圧力が続いたが、 生成AIの急拡大による データセンタ高速化需要 を獲得
サステナビリティ	女性管理職比率：12.1% (1.3ポイント上昇)

* 4つの重点分野：ローカル5G、EV・電池、医療・医薬品、光センシング

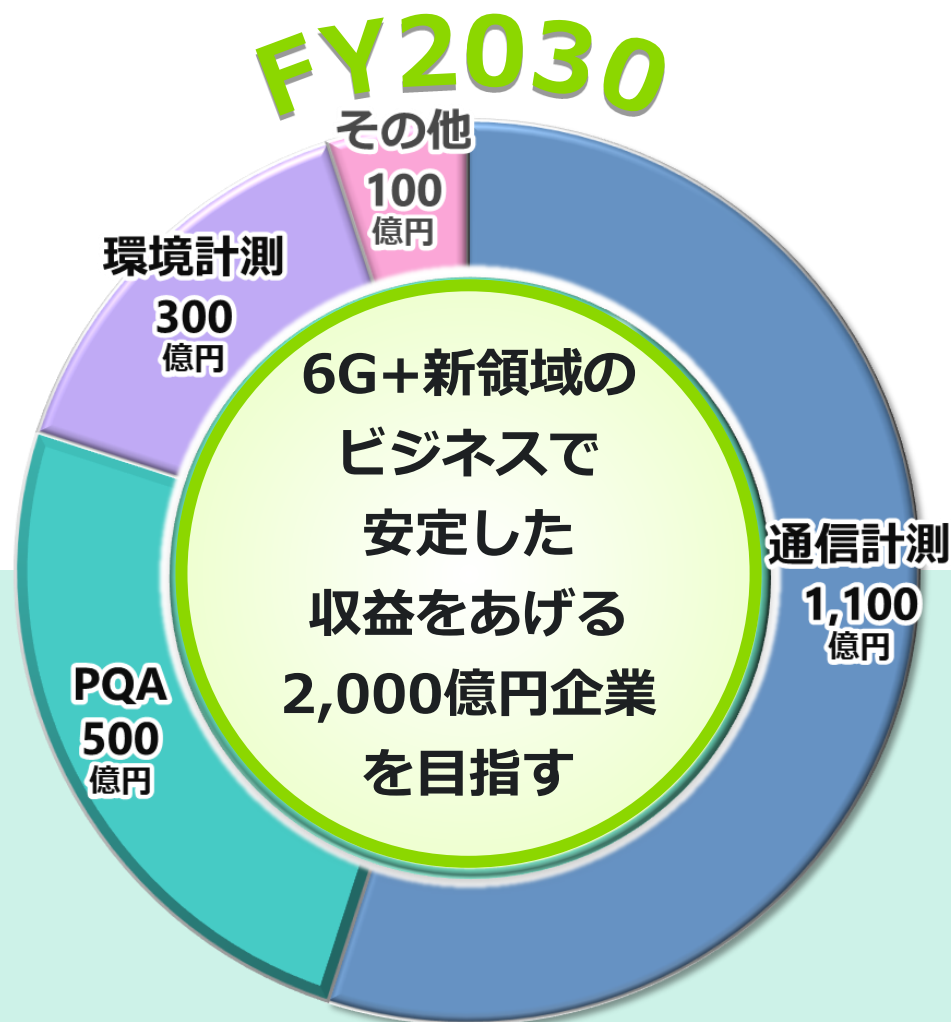
- 1 成長投資に400億円以上（M&A+設備投資）
- 2 ROE $\geq$ 10%を安定的に達成する事業ポートフォリオの構築
- 3 2026年度の営業利益の25%を通信計測以外で創出
- 4 新領域ビジネスの人材強化、全社での人材育成体制を構築
- 5 事業活動における資源循環(サーキュラーエコノミー)の実現
- 6 株主還元では配当性向50%以上を目指す

1-3-1. GLP2026とFY2030の目指す姿

「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。



1-3-2. FY2030の目指す姿



売上高 2,000億円

営業利益 400億円

営業利益率 20%

通信計測成長ドライバ

- 6G、IOWN
- 5G利活用
自動運転、スマートシティ
スマートファクトリー、
メタバース、衛星通信
- O-RAN、V-RAN
- 生成AIによる
ネットワーク高速化

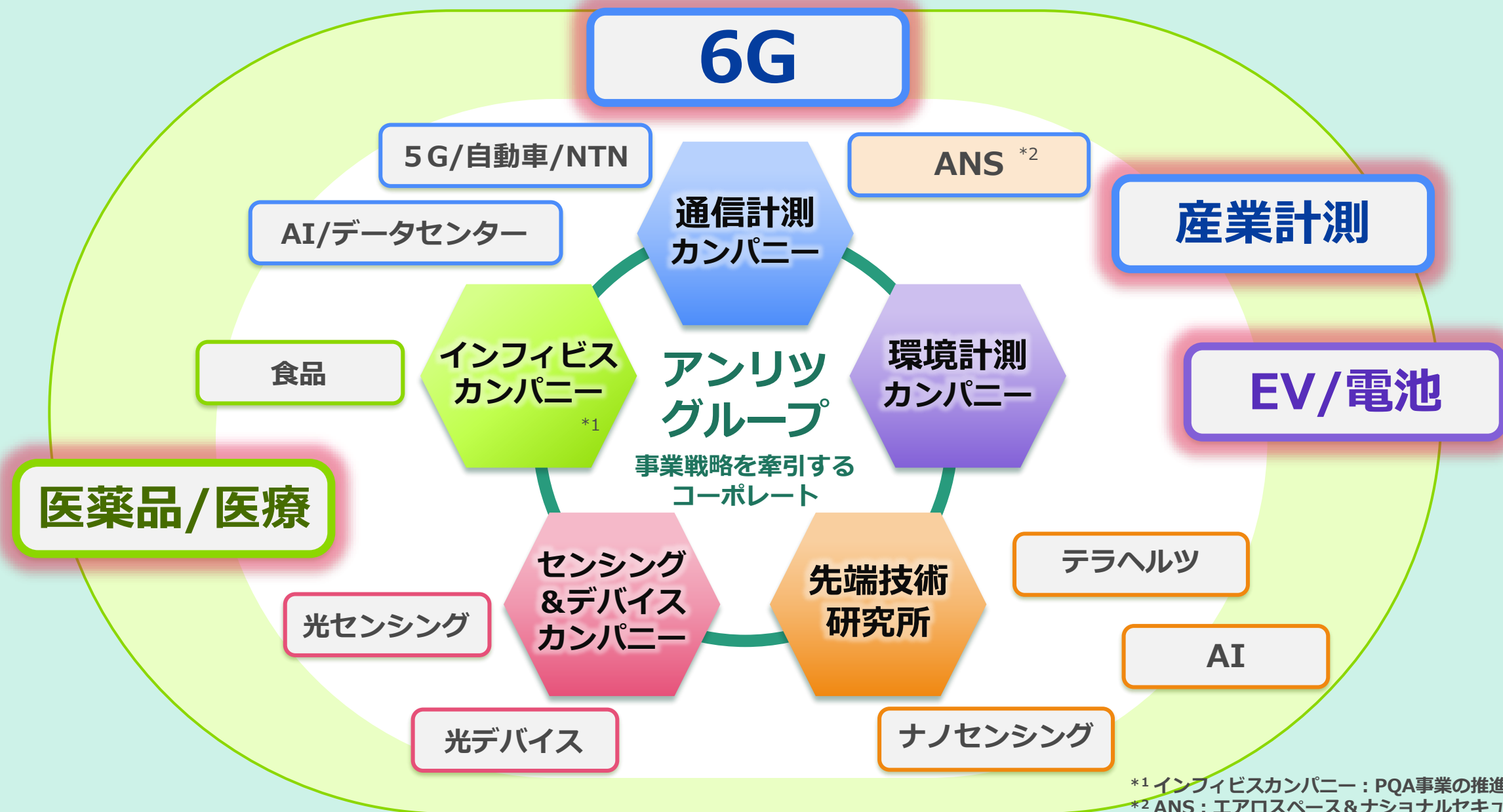
PQA成長ドライバ

- 食品市場での
グローバル事業拡大
- 医薬品市場への浸透
- AIを活用した
品質検査ビジネス

環境計測成長ドライバ

- EV・電池、
社会インフラの脱炭素化
- 産業DX、ローカル5G、
スマートファクトリー
- 社会インフラのスマート化
- グローバル展開

1-3-3. GLP2026 6Gと3つの新領域ビジネス



^{*1} インフィビスカンパニー：PQA事業の推進

^{*2} ANS：エアロスペース&ナショナルセキュリティ

1-3-4. 6Gと新領域ビジネスの成長をグループ横断で加速

6G

6Gで先行。
要素技術、
キーデバイスで差別化

ビジネスオーナー

通信計測
カンパニー

300GHz要素技術

先端技術
研究所

キーデバイス

センシング
&デバイス
カンパニー

EV/電池

販売と製造で通信計測
事業がグローバル
に協力。
成長を加速

ビジネスオーナー

環境計測
カンパニー

販売・製造協力

通信計測
カンパニー

産業計測

通信計測事業と環境計
測事業で通信以外の
産業に汎用計測器を
拡販

ビジネスオーナー

通信計測
カンパニー

販売協力

環境計測
カンパニー

医薬品/ 医療

インフィビスとセンシ
ング&デバイスは光セ
ンシング技術等を使い、
医薬品、医療分野開拓

ビジネスオーナー

インフィビス
カンパニー

光センシング

センシング
&デバイス
カンパニー

*インフィビスカンパニー：PQA事業

1-4-1. 売上高・営業利益計画（1/2）

指標	FY2024実績	FY2025実績
売上高	1,130 億円	1,175 億円
営業利益	121 億円	148 億円
営業利益率	11 %	13 %
当期利益	93 億円	117 億円
ROE	7.4 %	9.1 %

通信計測事業	売上高	701 億円	688 億円
	営業利益	84 億円	108 億円
	営業利益率	12 %	16 %
PQA事業	売上高	282 億円	310 億円
	営業利益	28 億円	33 億円
	営業利益率	10 %	11 %
環境計測事業	売上高	85 億円	108 億円
	営業利益	9 億円	9 億円
	営業利益率	11 %	8 %

FY2026	
当初計画	今回計画※1
1,400 億円	1,400 億円
200 億円	200 億円
14 %	14 %
150 億円	150 億円
12 %	12 %
900 億円	850 億円
150 億円	165 億円
17 %	19 %
300 億円	330 億円
36 億円	40 億円
12 %	12 %
130 億円	160 億円
14 億円	10 億円
11 %	6 %

※1：FY2026想定為替レート：1米ドル150円、1ユーロ175円

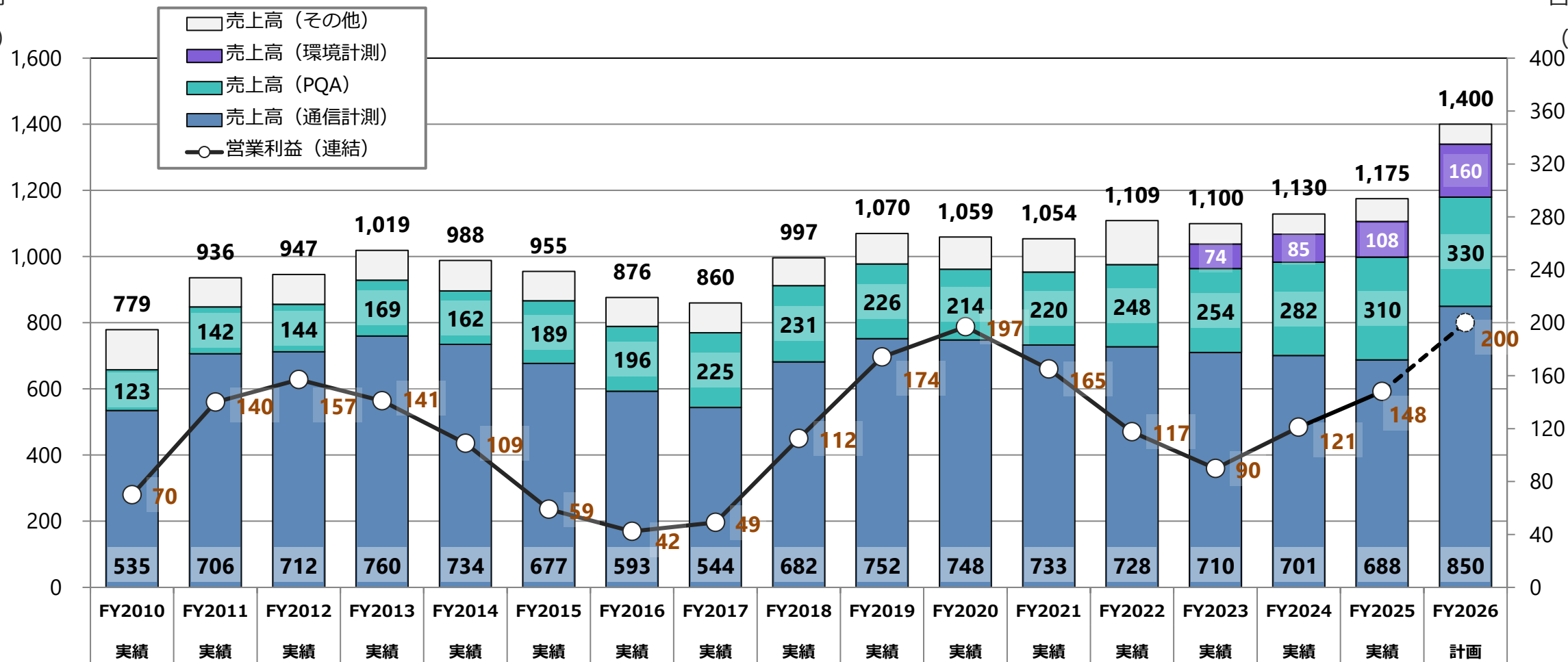
1-4-2. 売上高・営業利益計画（2/2）

売上高

(億円)

営業利益

(億円)

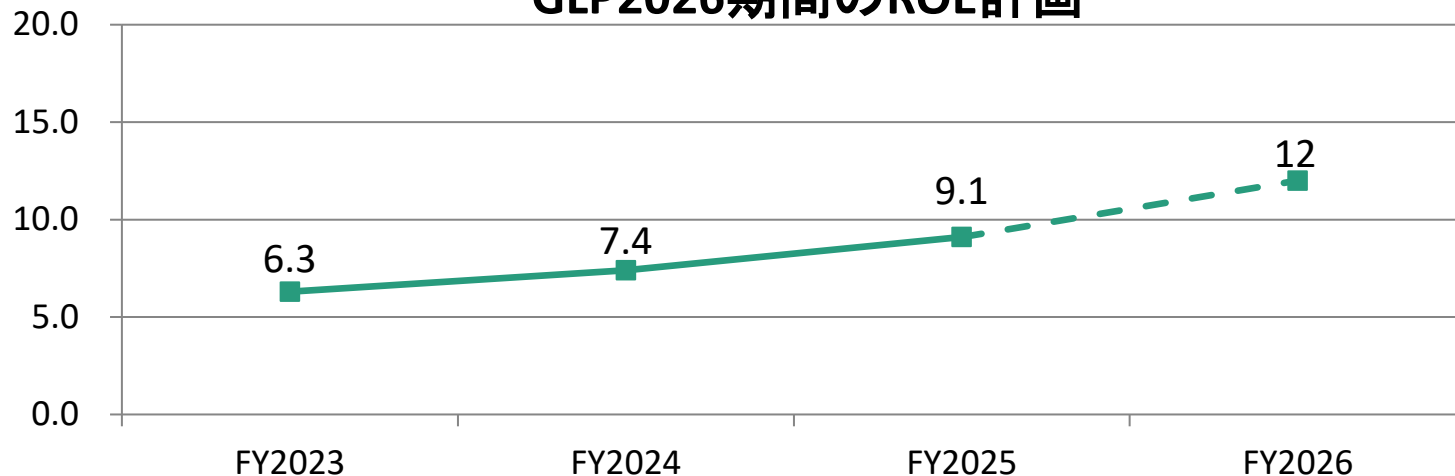


営業利益率	連結	9%	15%	17%	14%	11%	6%	5%	6%	11%	16%	19%	16%	11%	8%	11%	13%	14%
	T&M	9%	20%	21%	17%	12%	7%	4%	3%	14%	20%	24%	21%	15%	11%	12%	16%	19%
	PQA	5%	4%	6%	7%	5%	6%	7%	9%	7%	6%	6%	5%	5%	5%	10%	11%	12%
GLP計画		GLP2012		GLP2014			GLP2017			GLP2020			GLP2023			GLP2026		

1-5-1. 財務戦略

1. 株主資本コスト（7%）を上回るROEの実現
企業価値KPI ROE $\geq$ 12%

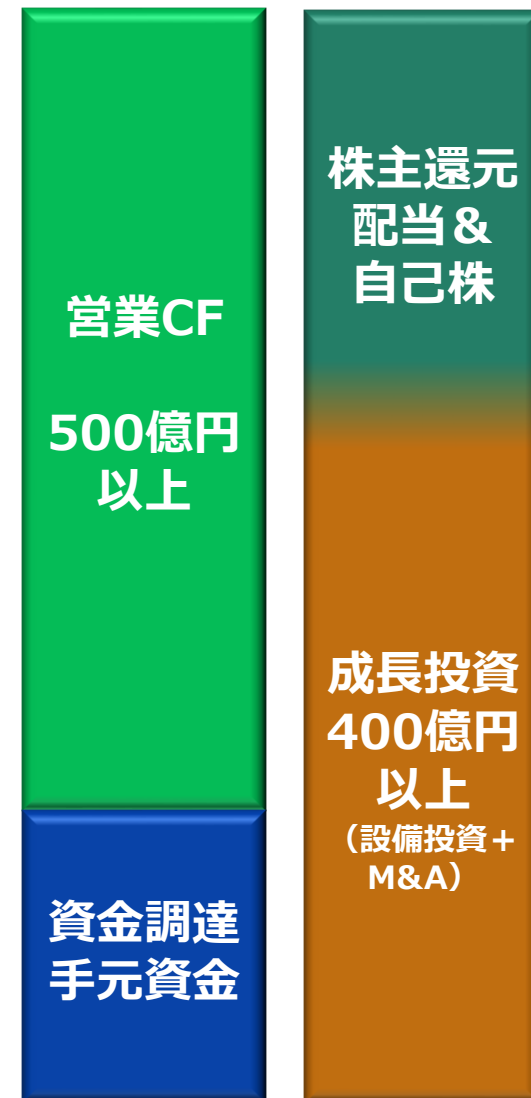
GLP2026期間のROE計画



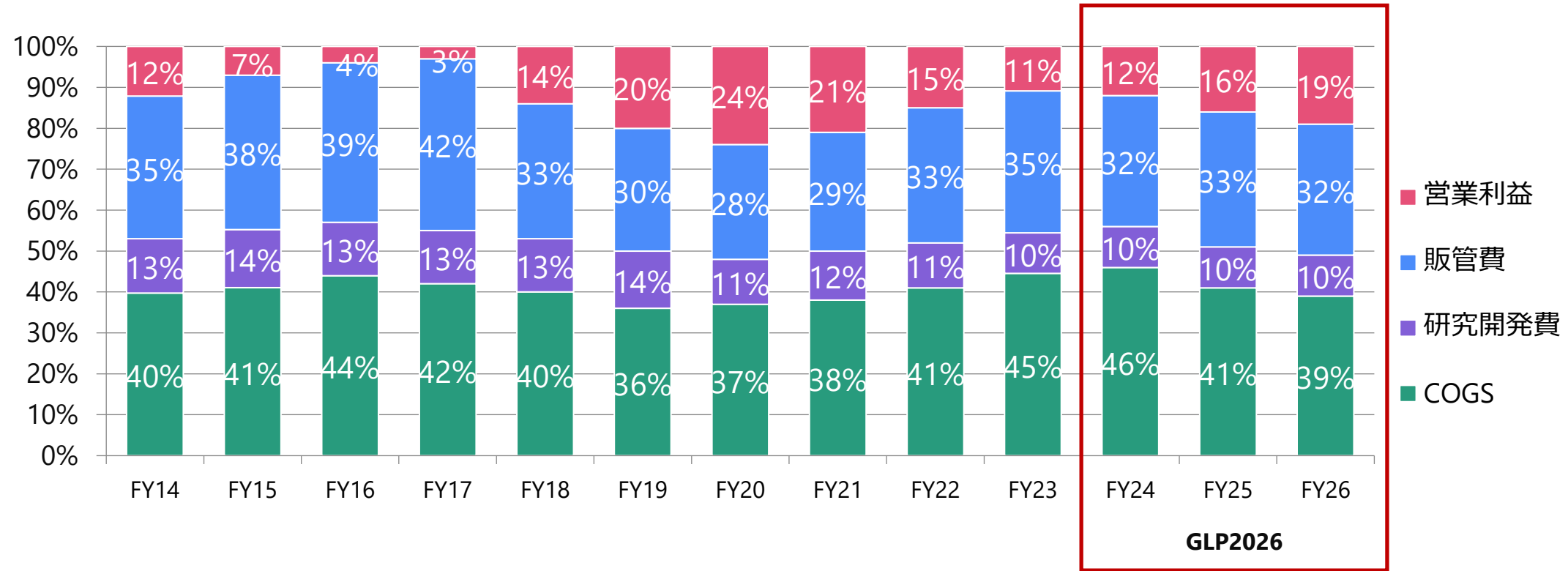
2. キャピタルアロケーションの最適化

500億円以上の営業CFに加えて、資産効率性の向上と強固な財務体質を活かした資金調達によりキャッシュを創出し、新領域のビジネスを推進するために400億円以上の成長投資を行います。株主還元については、配当は連結配当性向50%以上を目標とし、自己株式の取得は必要に応じて機動的に実施致します。

GLP2026期間の
キャピタルアロケーション
キャッシュ創出 キャッシュ使途



1-5-2. GLP2026：通信計測事業 収益構造モデル



コスト構造の改善に向けて

- ・ 高付加価値ソリューションの投入(サポートサービス、ソフトウェア)
- ・ 開発 ROI & ROIC マネジメントの徹底(*1)
- ・ 競争力の維持・向上：顧客動向の変化に対応した組織体制と人的資源の最適配分

*1 KPI：開発ROI（売上総利益／開発投資額） ≥ 4.0

経営ビジョン	「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。		
経営戦略	既存事業の枠を超え、FY2030に売上高2,000億円、営業利益率20%を目指す		
	新領域ビジネスの開拓	強いものづくり	働き方改革
人材ビジョン	「会社と多様な従業員がベクトルを合わせ、事業(社会)貢献意識を持ち、仕事と私生活のバランスを取りながら生き生きと働いている」		
人材課題	<ul style="list-style-type: none"> 経営戦略に連動した人材確保と配置 年齢別人員構成：FY2030に向けコア・中堅層の不足、シニア層の活用 経営戦略実現に向けた職場風土醸成：成長・挑戦/多様性受容/仕事と生活のバランス 		

■ Initiative

● 成長事業・重点領域の人材確保と育成

- ✓ 経営戦略からトップダウンで人員計画を作成し、全体最適で戦略的な人員確保/配置/教育を行う
- ✓ 経営層、経営戦略部門、人事部門によるレビュー体制の確立（人材戦略レビュー）
- ✓ A-SKILLSを立ち上げ、カンパニー横断での人材育成体制を構築

● 若年/リーダー層の積極採用と育成、およびシニア層活用強化

- ✓ 新卒/キャリア問わず、若年層/コア人材の積極的な獲得を目指す
- ✓ 配置/職種転換の推進やリスキリング等の継続的な成長支援によるシニア層活用強化

● 経営/人材ビジョン実現に向けた職場風土醸成

成長・挑戦

- ✓ 自らの壁を取り払い、新たな領域に好奇心を持って取り組む人材、ステークホルダーや他社と共に社会課題の解決を目指す人材を育成する

多様性の受容

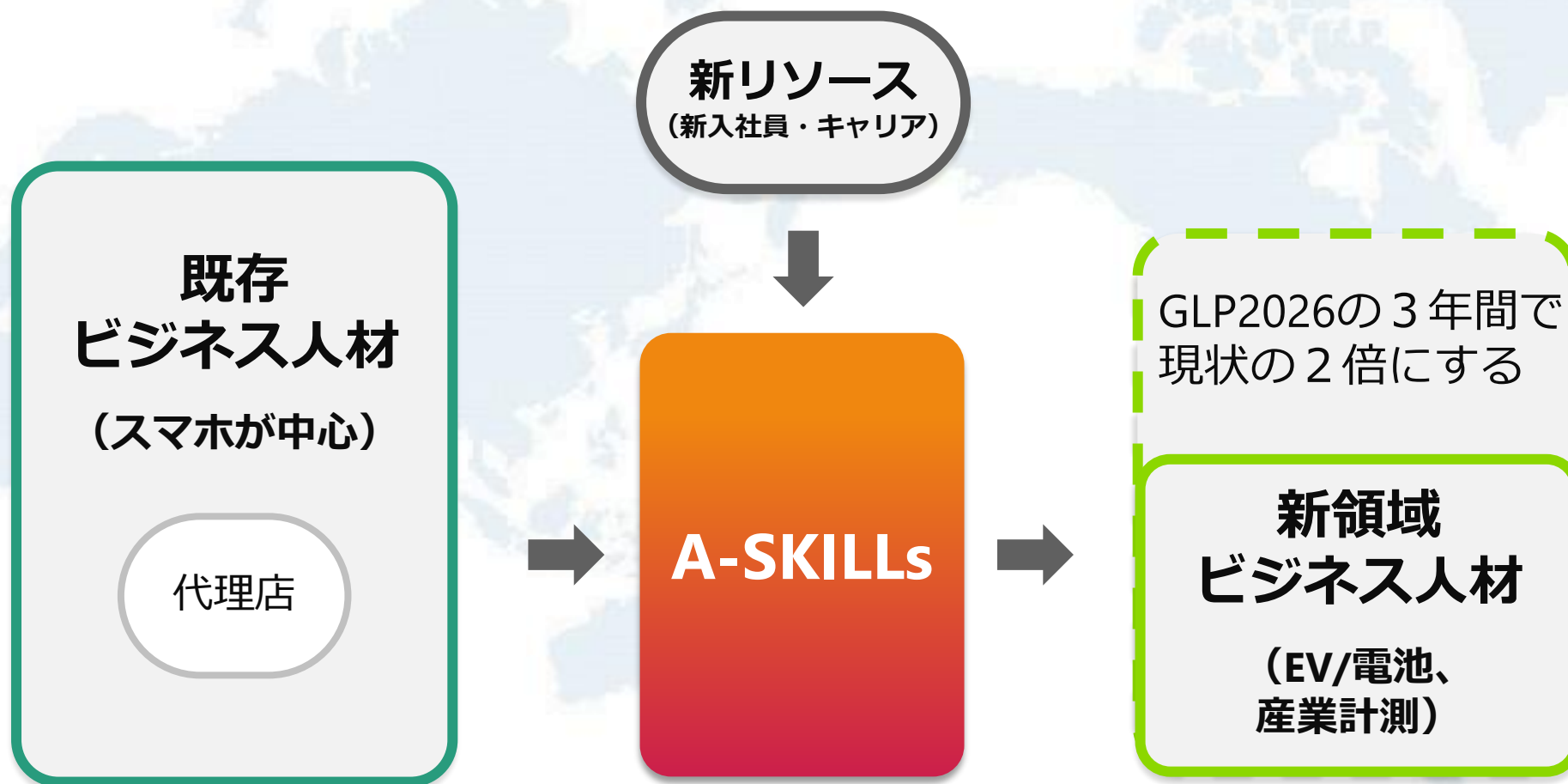
- ✓ 価値観や考え方も含め多様性を持つバラエティに富んだ人材が混ざり合い、多様な視点と強みを活かし新たな価値を創造する

ライフワークバランス、就業環境整備

- ✓ 「生活と仕事のバランスを考えて、働きやすく人生を楽しめる会社」と「労働生産性が高く働きがいがある会社」の両立に向けた制度・環境を整備する

Anritsu Skills Training Center (A-SKILLS)をスタート

- 新領域ビジネスの“技術”と“販売力”のスキルを身に着ける
- EV/電池計測、産業計測分野の人材をグローバルで増強



ビジョン

高品質で信頼性の高い通信テストソリューション、シミュレーションやサービスといった「はかるを超える」付加価値を提供し、DXの発展に貢献する。

通信の信頼性を上げることで社会の安全・安心を実現する。

計画達成に向けた方針

- ▶ 通信事業者、グローバルなデバイス・インフラベンダ、自動車関連ベンダに6G(サブテラヘルツ)、800GE/1.6TE、デジタルコヒーレント、テストとシミュレーションの高品質なソリューションを提供し、通信の安全・安心が担保できる社会基盤作りに貢献する
- ▶ 実環境での通信品質向上のための検証技術を世界に先駆けて確立する
- ▶ 6Gなどの次世代技術への投資を増大させる

ビジョン

**持続可能な未来に向けて、世界中のお客様から
最も信頼される品質保証の First to Call カンパニーになる**

計画達成に向けた方針

- ▶ グローバル市場への事業拡大
- ▶ お客様の課題を解決する独創的な品質保証ソリューションの創造
- ▶ 医薬品/医療市場への事業拡大

ビジョン

持続可能な社会の実現に貢献するソリューションを提供し、カーボンニュートラル、産業のデジタル変革、社会インフラのレジリエンスに向けた課題解決に不可欠な存在として認知され確固たる地位を確立する

計画達成に向けた方針

- ▶EV/電池試験ソリューションの継続強化により市場成長以上の事業成長を実現する
- ▶EV/電池試験ソリューションのグローバル(北米市場)展開をGLP2026で軌道に乗せる
- ▶「つなぐ技術」で製造現場の効率化/省人化を実現する
- ▶社会の安全・安心を守る通信インフラの次世代化に貢献する

1-7-4. サステナビリティ目標（SDGs）の状況

GLP2026の目標

KPI

2024年度実績・進捗

E 環境	● 温室効果ガスの削減（Scope1+2）	2021年度比 23%以上削減	31.1%削減
	● 温室効果ガスの削減（Scope3）	2019年度比 17.5%以上削減	37.3%削減
	● 自家発電比率（PGRE 30*）の向上	14%以上（2018年度電力消費量を基準）	12.5%
	● 資源循環（サーキュラーエコノミー）の実現	プラスチックごみを100%マテリアルリサイクル	77%マテリアルリサイクル
S 社会	● ダイバーシティ経営の推進	女性管理職比率15%以上	12.0%（2025年3月末）
		障がい者雇用促進：職域開発による法定雇用率2.7%達成	2.9%
	● 働きがいのある労働環境の実現	従業員満足度調査の働きがいポジティブ回答率：80%以上	72%
	● グローバルなCSR調達の推進（環境、労働環境、人権などにおける社会的責任）	サプライチェーンデューデリジェンスの強化：年10社以上	10社実施
G ガバナンス	● グローバルなガバナンス向上	取締役会の多様性の推進：女性取締役比率 20%	10%
		取締役会における経営課題の集中討議：6回/年	6回実施

* PGREは、Private Generation of Renewable Energy（再エネ自家発電）の略であり、「30」は達成時期の2030年ごろと自家発電比率目標値30%程度を意味します。

2. 事業概要

2-1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ◆ モバイル市場 : 5G/6G、5G利活用
- ◆ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光/無線NW
- ◆ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備、研究開発



PQA事業

食と医薬品の安全・安心

- ◆ 食品検査市場
- ◆ 医薬品検査市場



環境計測事業

脱炭素社会を目指して

- ◆ EV/電池市場
- ◆ 社会インフラIT市場



その他



- ◆ センシング & デバイス
- ◆ その他

(セグメント別売上比率)

2025年3月期 実績 (連結) : 1,130億円

通信計測 62%			PQA 25%	環境計測 8%	その他 5%
モバイル 43%	ネットワーク・インフラ 39%	エレクトロニクス 18%			

2026年3月期 実績 (連結) : 1,175億円

通信計測 59%			PQA 26%	環境計測 9%	その他 6%
モバイル 38%	ネットワーク・インフラ 39%	エレクトロニクス 23%			

(通信計測事業 地域別売上比率)

2025年3月期 実績

日本 16%	アジア他 38%	米州 28%	EMEA 18%
--------	----------	--------	----------

2026年3月期 実績

日本 17%	アジア他 36%	米州 28%	EMEA 19%
--------	----------	--------	----------

提供するソリューション

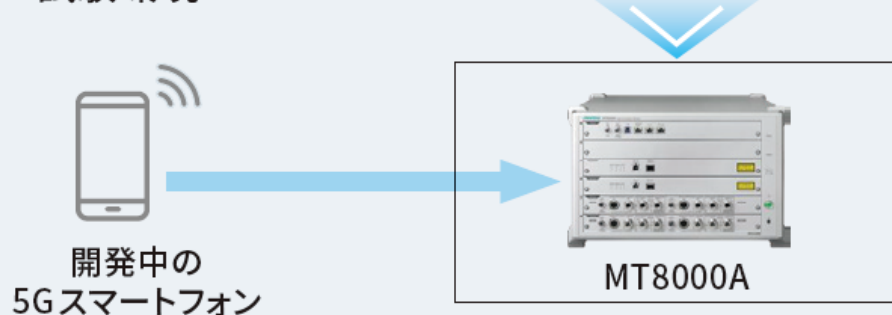
スマートフォン開発

アンリツの計測器が擬似的な基地局となり、スマートフォンと接続して無線および通信プロトコルの動作のデバッグを実施する環境を提供しています。

●実環境



●試験環境



光ランシーバーの製造

生成AIの普及によるデータセンターの新設・大容量化に伴い、通信の高速化が急速に進んでいます。

アンリツは100GE/400GE/800GE 光ランシーバーの量産向けに性能評価の環境を提供しています。



* 出典：Yole社の市場調査レポートより



KXH7534ASGCD

食の安全・安心

検査品の内部を透過するX線による検査であり、異物検出用に開発した深層学習型AIを搭載することで、より確実に高度な異物検出を可能としています。さまざまな食品の生産ラインにおいて、異物だけでなく、検査品の形状不良や数量不足の検査が可能です。

鶏肉の残骨検査



異物検査

食品などに含まれる石やプラスチック、残骨などを検出します。



欠品検査

お弁当のおかずの欠品がないか検査します。

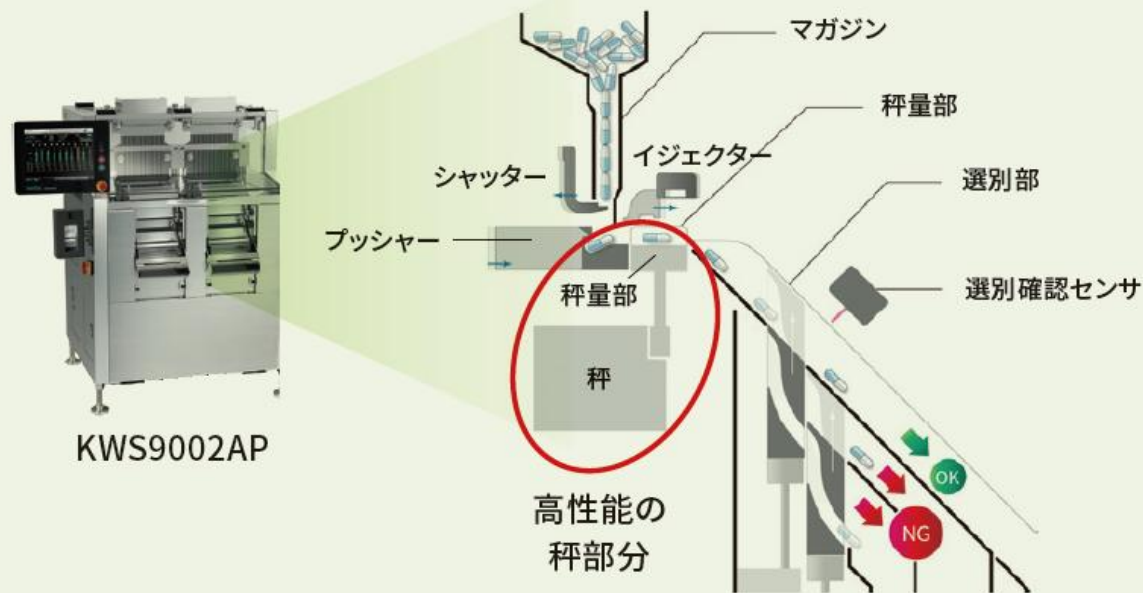
欠品

提供するソリューション

医薬品市場向け

カプセル医薬品の重量を高速・高精度で全数検査します。高性能の秤は、業界最高ランクの測定精度※を実現しており、医薬品の製造効率の向上に貢献します。

※ 当社調査結果による

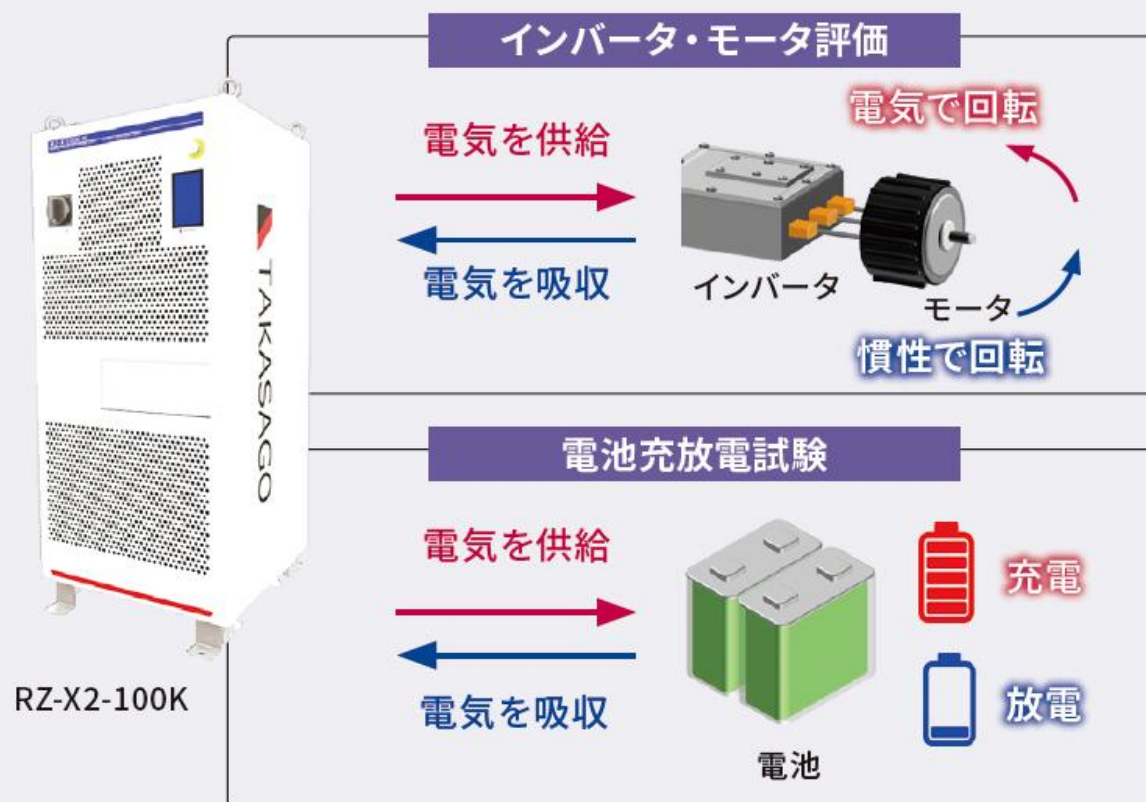


KWS9002AP

提供するソリューション

EVの駆動系や電池の試験をサポートする高性能電源の提供

数百ボルトにもなるEVの駆動系の試験用高電圧電源を、これまで培った高精度・高速応答・高安定・高効率・電力制御技術により実現しました。EVで使われる電池やモータなどを安全・安心に利用するための試験をサポートしています。



提供するソリューション

光・超高速電子デバイスの開発・製造とその利活用技術の開拓により、強靱な通信インフラの構築や安全で精密な眼科検診などを実現することで、通信をはじめ幅広い分野に貢献しています。

産業用光センシング

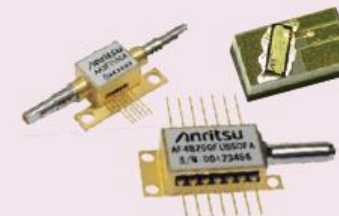
各種産業用途に最適な光源を提供します。



SLD、波長掃引光源、
DFB-LD (分布帰還型レーザー)

通信用光デバイス

長距離伝送に最適な光信号の増幅器を提供します。



Pump LD、SOA (半導体
光増幅器)、Gain Chip

医療用光センシング

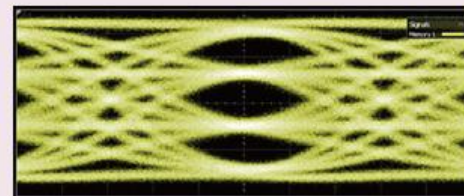
網膜断面の観測や眼軸長測定に最適な光源を提供します。



SLD、波長掃引光源

通信用電子デバイス

通信の進化を支えるドライバー、アンプを提供します。



ドライバー/アンプモジュール、
高速電子モジュールほか

3. 通信計測事業

3-1. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模

Wireline
Market

生成AI、データセンターの高速化、大容量化、All Photonic Network (オール光化)

- ・ 400GE量産
- ・ IOWN 1.0
- ・ PCIe 6.0規格化

5G/6G
Utilization
Market

- ・ RedCapチップ開発
- ・ AR/VR
- ・ NB-IoT NTN
- ・ SDV
- ・ Wi-Fi 7
- ・ NR-NTN
- ・ NG-eCall
- ・ Hybrid-eCall
- ・ eRedCapチップ開発
- ・ 自動運転
- ・ フィジカルAI (Wi-Fi/5G)
- ・ Wi-Fi 8

Mobile
Market

5G Development

5G-Advanced

6G

- ・ Rel.17開発投資

- ・ Rel.18開発投資
- ・ Rel.19開発投資
- ・ FR3開発投資

- ・ Rel.20開発投資
- ・ Rel.21開発投資
- ・ Pre-6G
ロス五輪

- ・ サブTHz基礎研究

- ・ 1.6TE量産

- ・ PCIe 7.0開発投資

- ・ IOWN 3.0

- ・ 1.6TE開発

- ・ PCIe 7.0規格化

- ・ マルチコア光ファイバー

- ・ PCIe 6.0開発投資

- ・ IOWN 2.0

- ・ 800GE量産

- ・ 3.2TE開発

- ・ CPO量産化

2022

2023

2024

2025

2026

2027

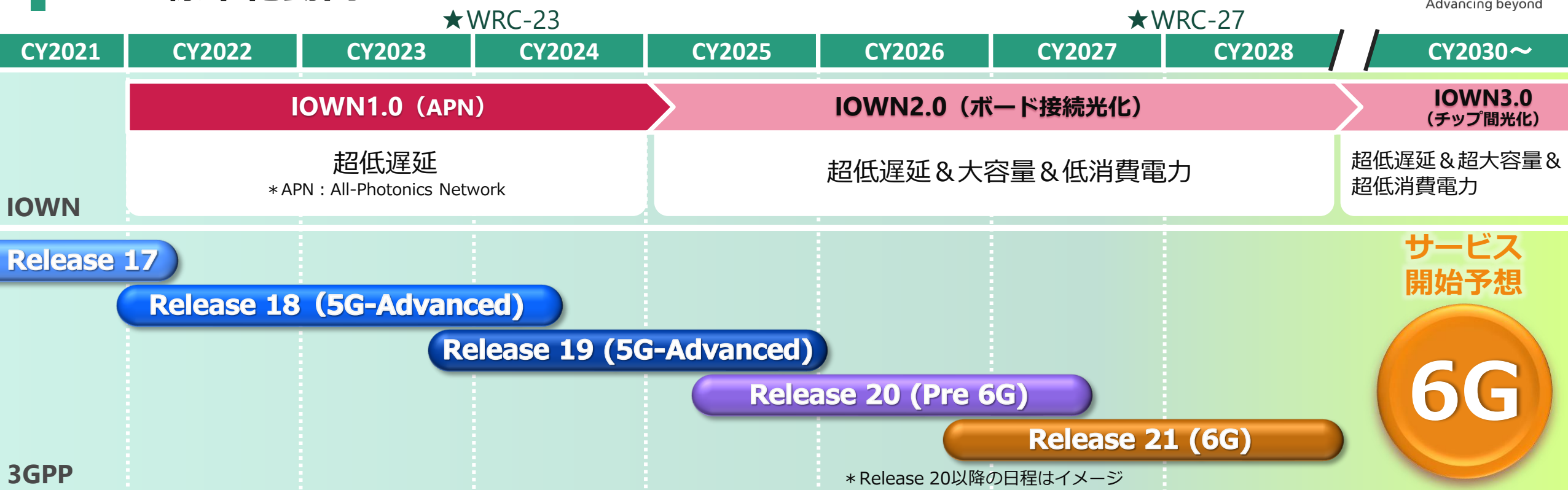
2028

2029

2030

CY

3-2. 標準化動向



3GPP Releaseの主な追加仕様	Release17	Release18	Release19
Network強化	NTN(非地上ネットワーク)(NB-IoT)	NTN機能拡張(5G NR) AI/MLモデルの配信/転送	FR3(7~15GHz)対応 AI/MLエアーインターフェイス
端末機能強化	電力消費量低減	ミッションクリティカル通信	XR機能強化
産業用IoT	産業用IoT “RedCap”の導入	eRedCapの策定	UAV/UAM（ドローン/空飛ぶ車）
Automotive	V2X	サイドリンクCA	FR2サイドリンク

* 出所：一般公開情報を参考に当社作成

3-3. GLP2026実現とその先に向けた事業展開

主要市場とその概要

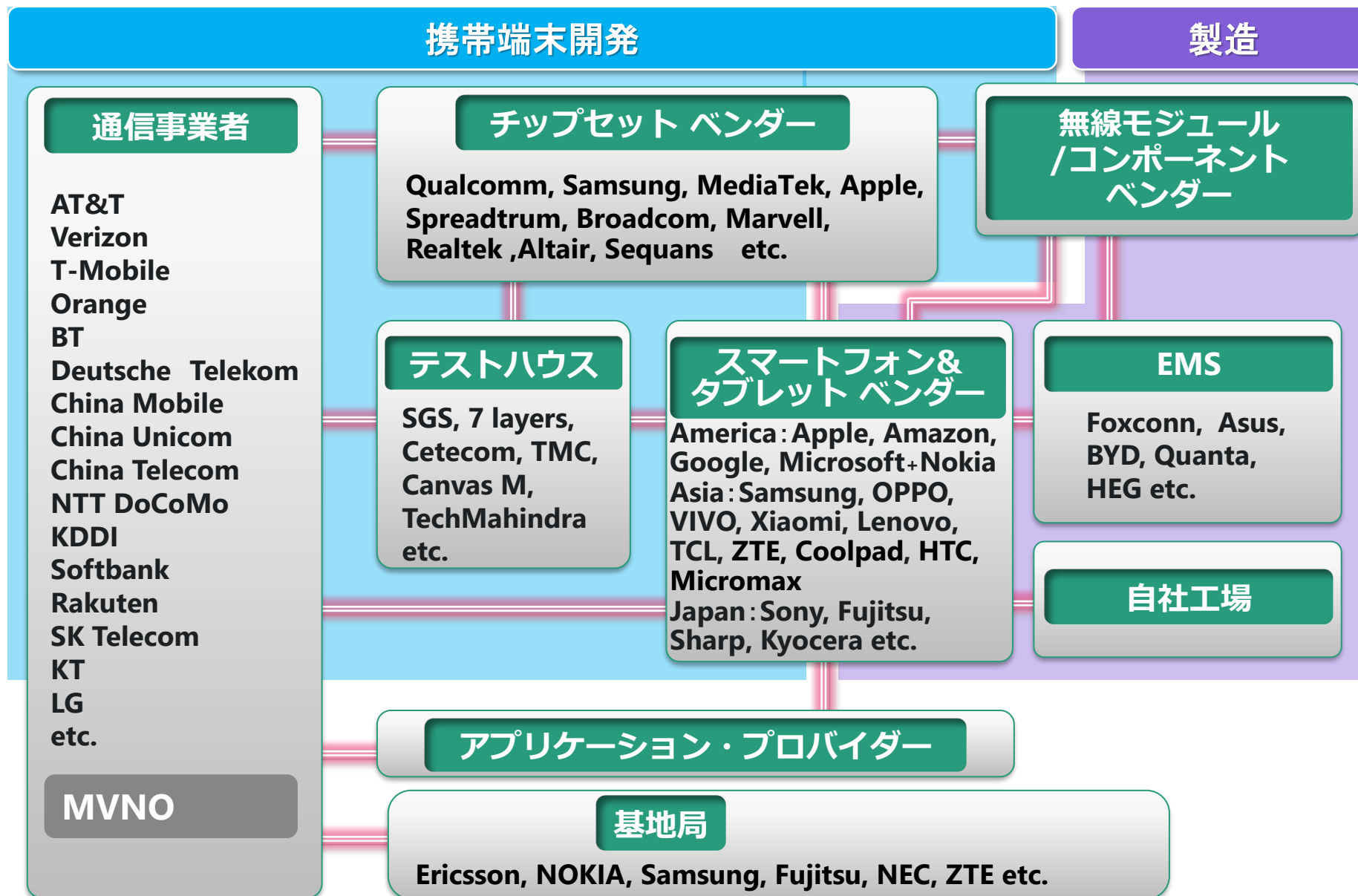
市場	テクノロジー	概況
 自動車 ----- スマートフォンへの付加価値 NTN, WLAN	NG-eCall: 4G → 5G (Hybrid eCall)	<ul style="list-style-type: none">24年以降全新車に4G/5GのTCU装備欧州では26年1月からNG-eCall対応義務化
	NB-IoT NTN→NR NTN Wi-Fi 7 → Wi-Fi 8	<ul style="list-style-type: none">SBMとNTTドコモ26年後半からHAPS開始主要ハイエンドスマホはWi-Fi 7対応済
 6G (アッパーミッドバンド)	7～15GHz帯 (FR3の一部)	<ul style="list-style-type: none">グローバルでの統一は7.125 – 8.4 GHz最初のチップセットが28年頃製品化か
 データセンター	800GE → 1.6TE CPO (Co-Packaged Optics)	<ul style="list-style-type: none">1.6TE光トランシーバー製造立ち上がりBroadcomに続きNVIDIAが25年にCPO製品化
汎用無線(産業計測)	3～30GHz以上の周波数帯	<ul style="list-style-type: none">衛星通信を始め各種通信サービスの多様化干渉波試験や部品などのノイズ試験

地域	市場	概況
インド・東南アジア	半導体、通信デバイス、自動車	<ul style="list-style-type: none">FDI増加。現在は製造メイン、今後は開発も

3-4. 5G端末の開発・製造プロセスとテストソリューション



3-5. モバイル通信市場の業界構造



3-6. Virtual Signaling Tester (Virtual ST)

コンピュータ上で動作するソフトウェアベースの基地局シミュレータ

通信用モデムチップセットにはプロトコルを搭載するため、その検証プロセスが重要です。その検証プロセスを通信用モデムチップの設計段階で仮想環境において検証ができる Virtual Signaling Testerを開発しました。

■ 特長

- 通信用モデムチップセットのモノができる前からソフトウェアベースでテストと検証が可能
- まだ規格変更が多いBeyond 5Gや6Gのプレ試験に対応
- IoTデバイスなどの試験向けに低コストソリューションの提供

■ 対象顧客

通信用（IoT含む）チップセットメーカー
モバイル端末メーカー

プレ試験およびIoTデバイス用

Virtual ST
(ソフトウェアベース)



テストと検証

モデムチップの
設計段階



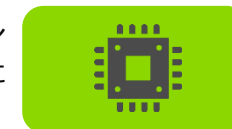
規格フル適合試験用

MT8000A



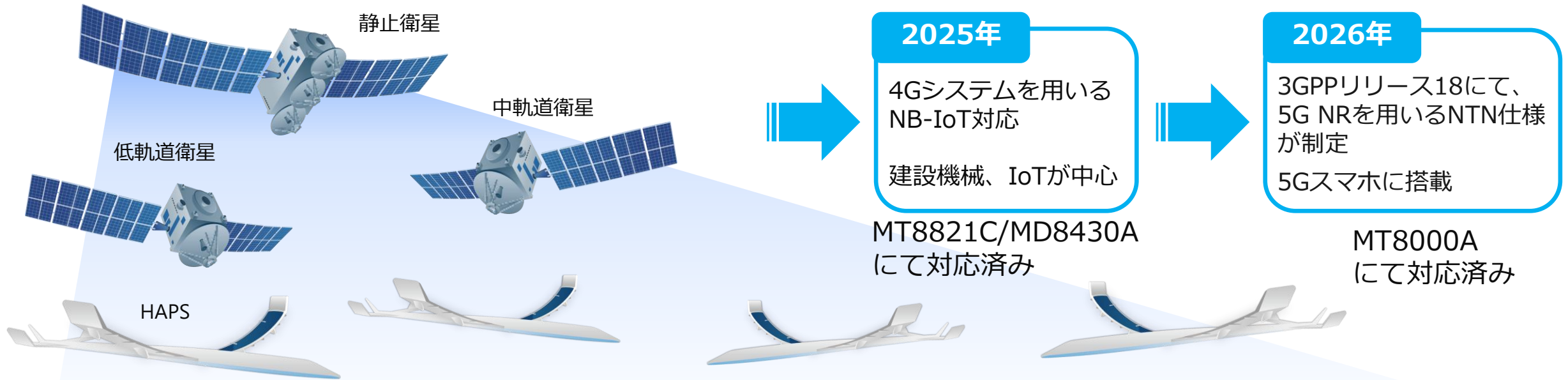
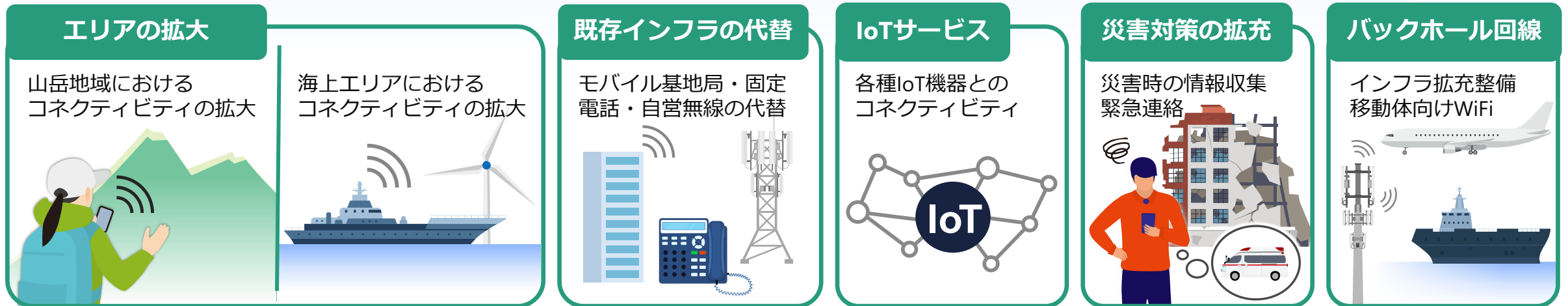
テストと検証

スマートフォン
に組み込まれた
モデムチップ



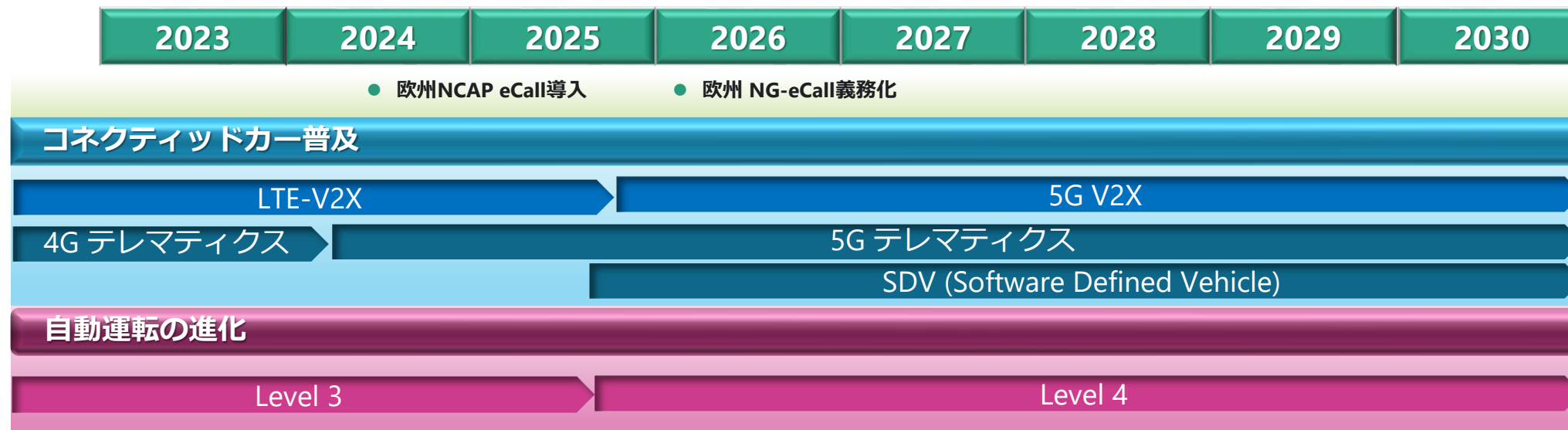
3-7. 衛星やHAPSを用いたモバイル通信のための開発向けソリューション

衛星やHAPSを用いたモバイル通信サービス実現に向けNTN規格に対応



NTN利用時のユースケース

3-8. 自動車市場における新技術の導入とアンリツの取り組み



コネクティッドカー/ V2X



- Infotainment/ Connected Services
- NG-eCall (4G/5G), UN-R144 (eCall)
- Cyber Security
- V2X (802.11p, C-V2X)

HILと連携した通信協調型サービス



フィールドモニタリング

- SmartViser社協業

※V2X: Vehicle to X (車車間・路車間通信)

3-9. NG-eCall(車両緊急通報システム) 向けソリューション

欧州で義務化されるNG-eCallの機能試験に対応

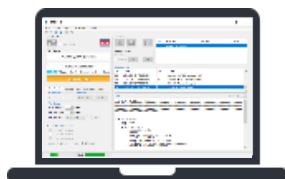
- ・ 欧州市場にて2026年1月1日から義務化されるNG-eCall^{*1}の試験をサポート
- ・ MT8000A/MD8475BとeCallテストを組み合わせて擬似的なネットワークを構築



MT8000A ラジオコミュニケーション
テストステーション



MD8475B シグナリングテスト

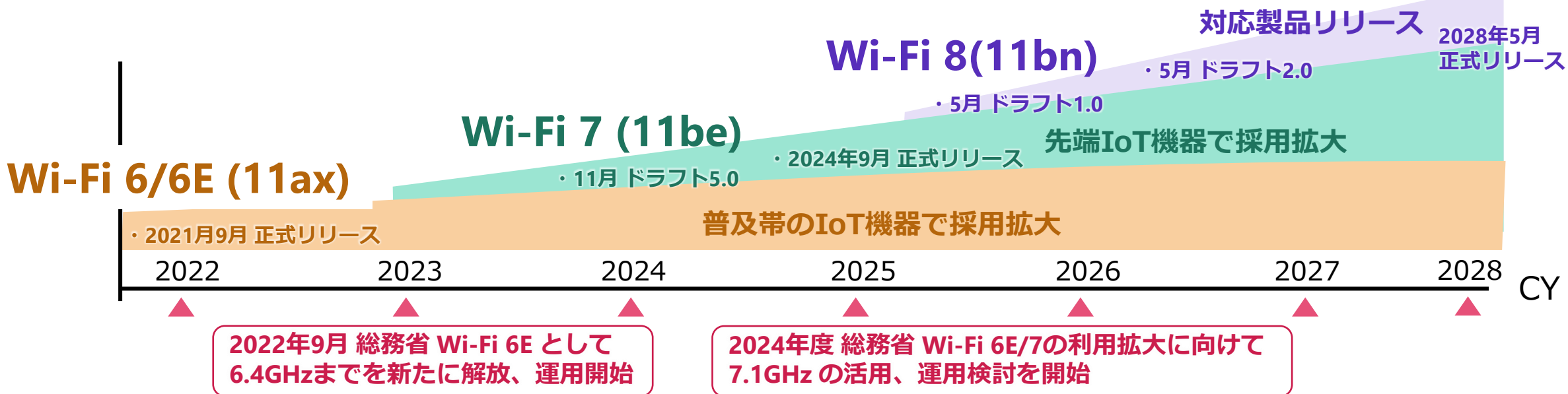


MX703330E eCallテスト



*1: Next Generation Emergency Call

3-10. IEEE 802.11 無線LANの規格動向

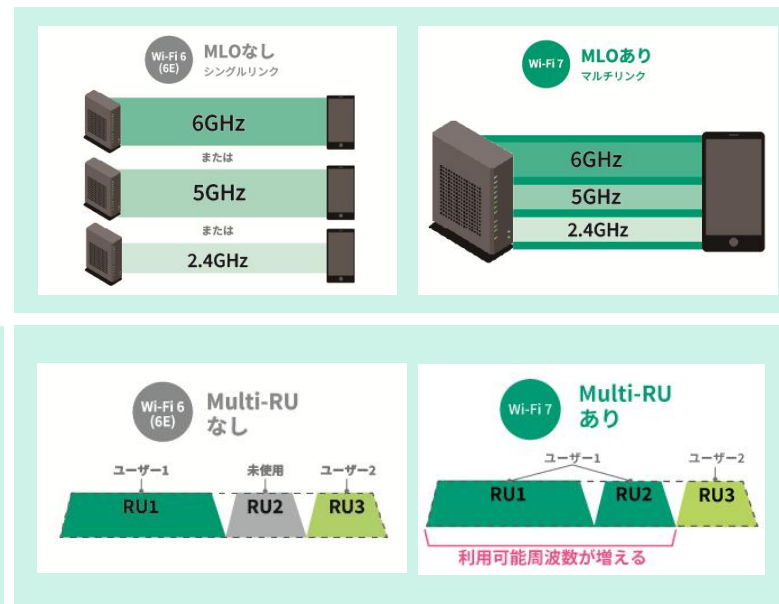


WiFi 7で大きく進化

(ハイエンドスマホで対応)



ワイヤレスコネクティビティ
テストセット MT8862A



3-11. サーバー内高速化のための開発向けソリューション

サーバー内通信の高速化に向けて、PCIe Gen6に対応

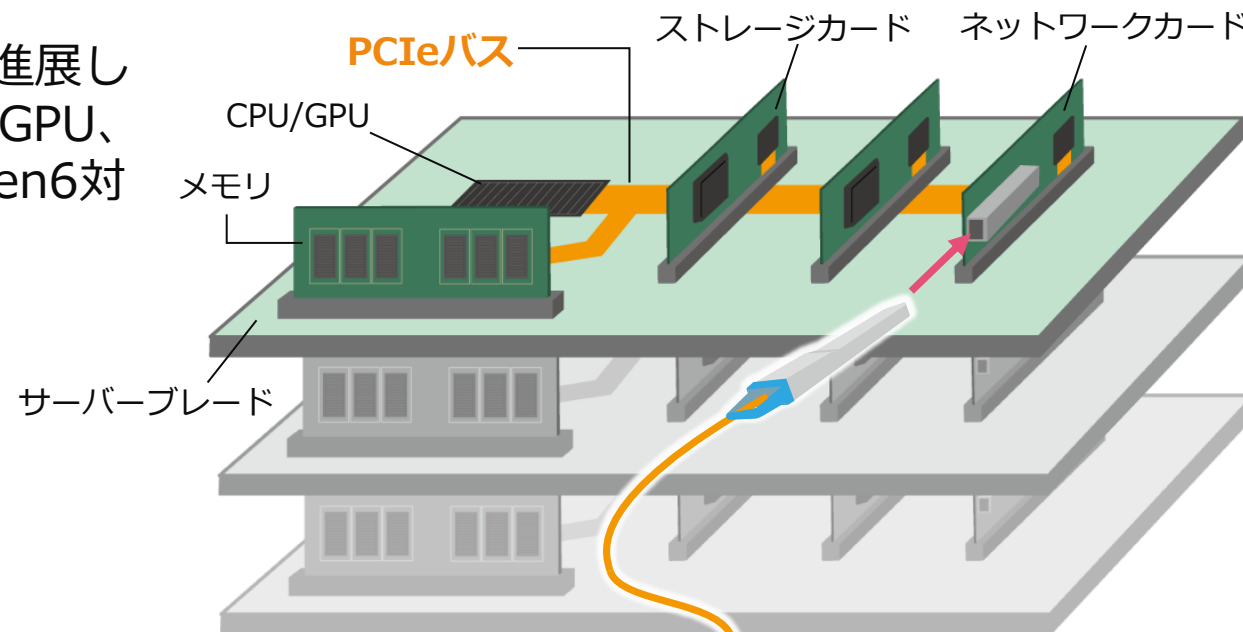
サーバー間の光ネットワークとして、800GE化が進展している。これに伴い、サーバブレード上のCPU/GPU、メモリ、各種モジュール間の高速通信にPCIe Gen6対応が進められている。

MP1900Aの強み：

- ・ 自社内製デバイスを使用することで高い波形品質の出力信号を実現
- ・ Gen6が要求するLink Training（ループバック試験）プロトコルに対応（業界初*）

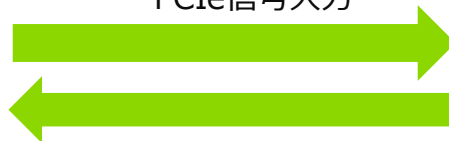
*: アンリツ調査による

データ誤り率と波形品質の評価に使用

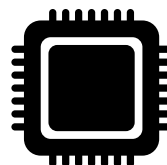


シグナル・クオリティ・アナライザ
MP1900A

受信性能試験としてひずみを加えた
PCIe信号入力

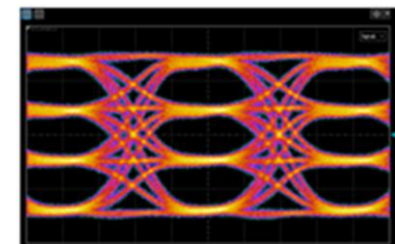


出力信号の
誤り率を測定



DUT

出力信号の波形測定

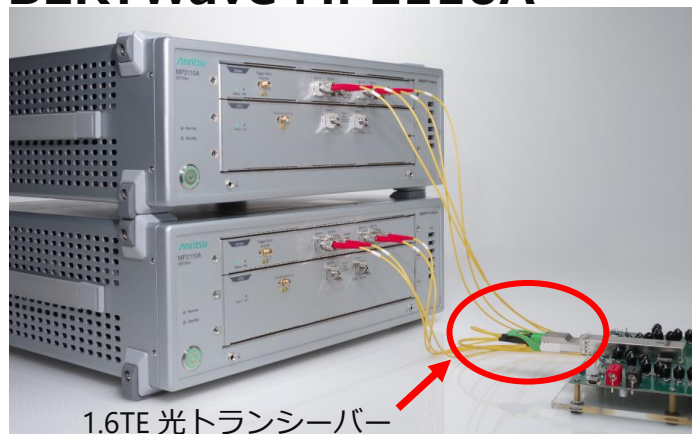


オシロスコープによる観測波形

3-12. ネットワークの高速化に向けたモジュール製造向けソリューション

生成AIの普及によるデータセンターの大容量化に伴う光トランシーバー評価に対応

BERTWave MP2110A



MP2110Aの強み：

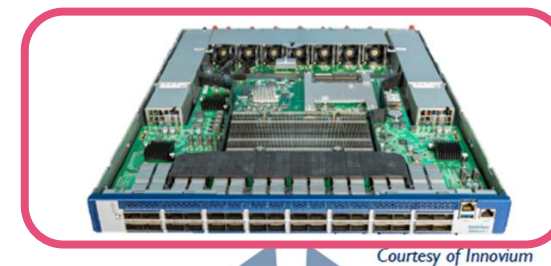
製造検査に最適な構成

- ・ 4チャネルの同時測定が可能
- ・ 高い測定確度と信頼性で200G/Laneの信号評価を高速に実現

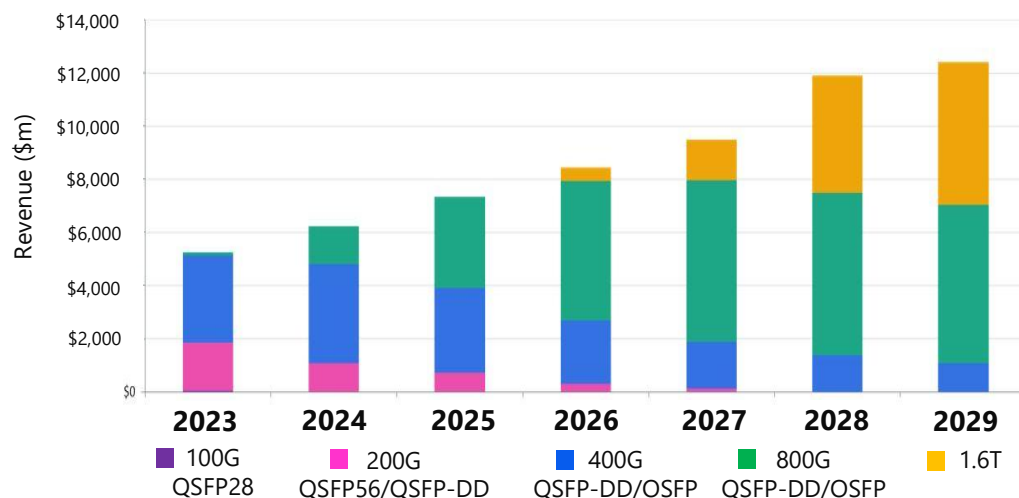
← 400GE/800GE/1.6TE信号 →

サーバーユニット

出典：Yole社の市場調査レポートより

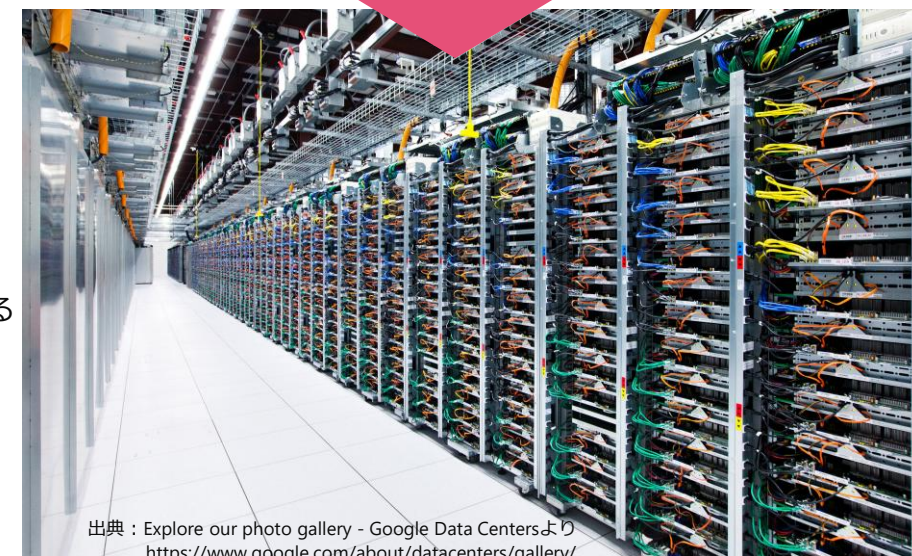


Optical modules by data rate



出典：Omdia; 2025 Trends to Watch: Datacom Optical Components

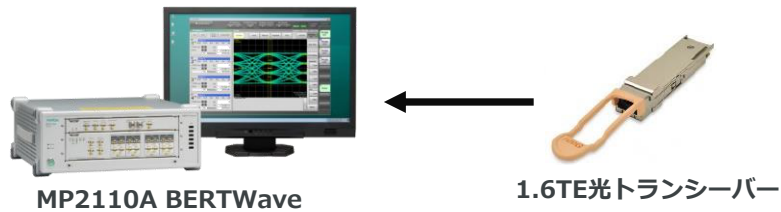
サーバーラックの裏側
サーバーユニットに挿入される
大量の光トランシーバー



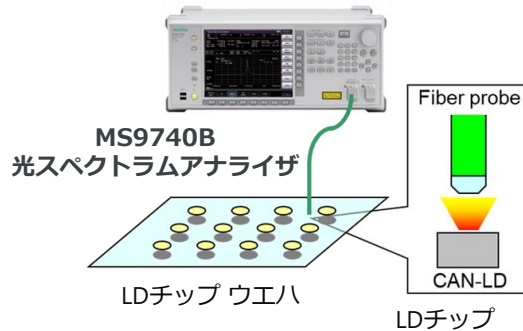
3-13. データセンターに向けた取り組み

光デバイス/光トランシーバー、セミコンダクタ

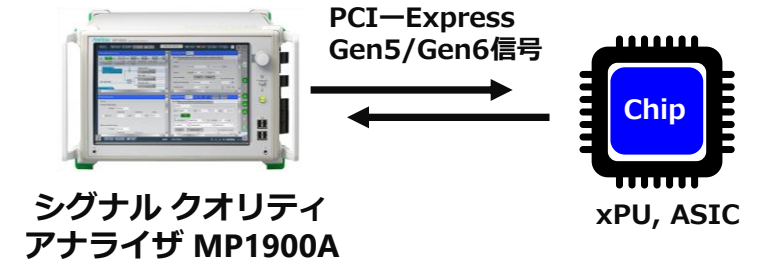
光トランシーバー製造評価/CPO光波形評価
4ch同時測定で効率化、
400/800GE ⇒ 1.6TEモジュール評価に対応 **New**



光トランシーバー/CPO向けLD評価

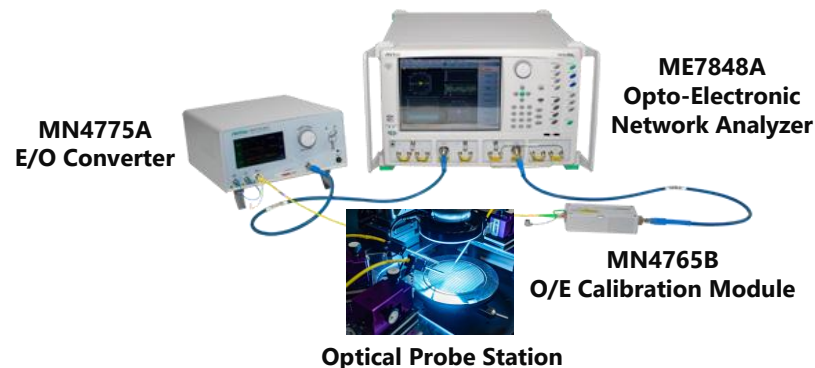


サーバー内のデバイス/モジュール評価
PCIe G5, G6デバイス性能マージン評価



シリコンフォトニクス/デバイス チップ評価

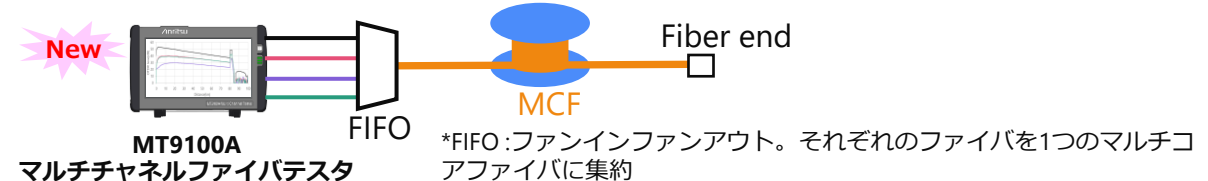
E/O, O/Eの組合せで、110GHz帯域までの電気/光、光/電気、電気/電気
デバイス評価に対応



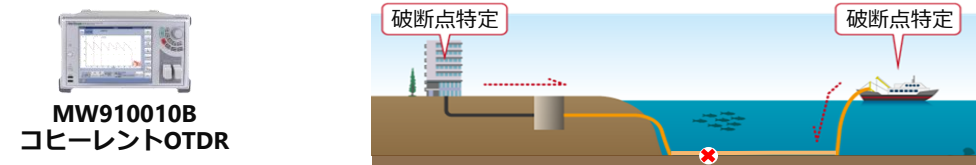
光海底ケーブル

マルチコアファイバ(MCF)の品質、製造性評価

4コア一括測定で効率化、コア間クロストーク測定、破断点特定

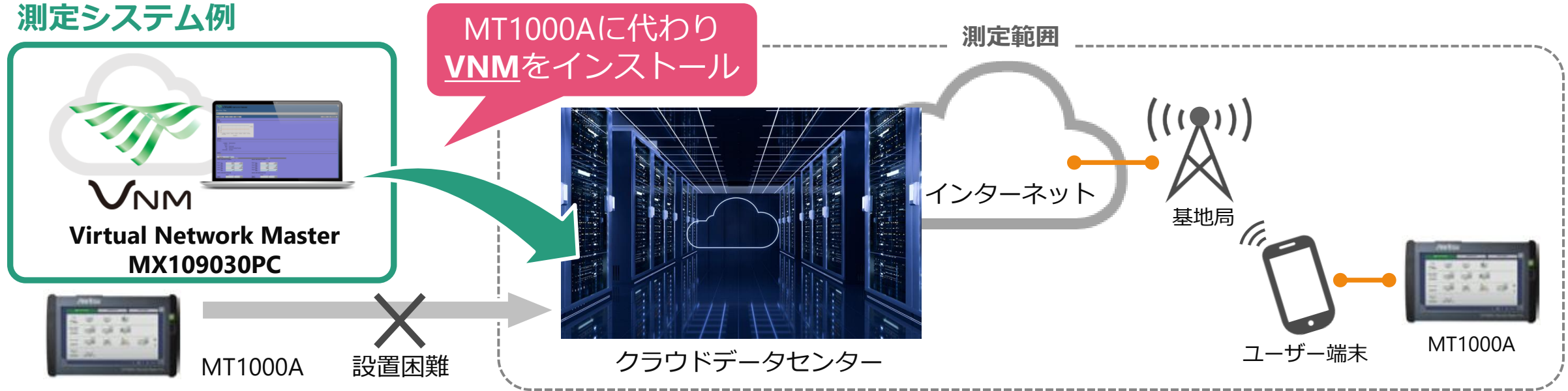


光海底ケーブル敷設、保守



エンド・ツー・エンド通信品質の評価用ソフトウェアソリューション

■ 測定システム例



■ 特長

- クラウドサーバー側にMT1000Aの設置が困難なクラウド環境下でも、ソフトウェアベースの試験ソリューションによりリアルタイムの通信品質評価を実現
- 外部PCにて、Virtual Network Masterを制御、各種測定の設定と結果表示・出力が可能

■ 主な測定項目

- 通信品質： 遅延時間、フレームロス、パケットジッタなど

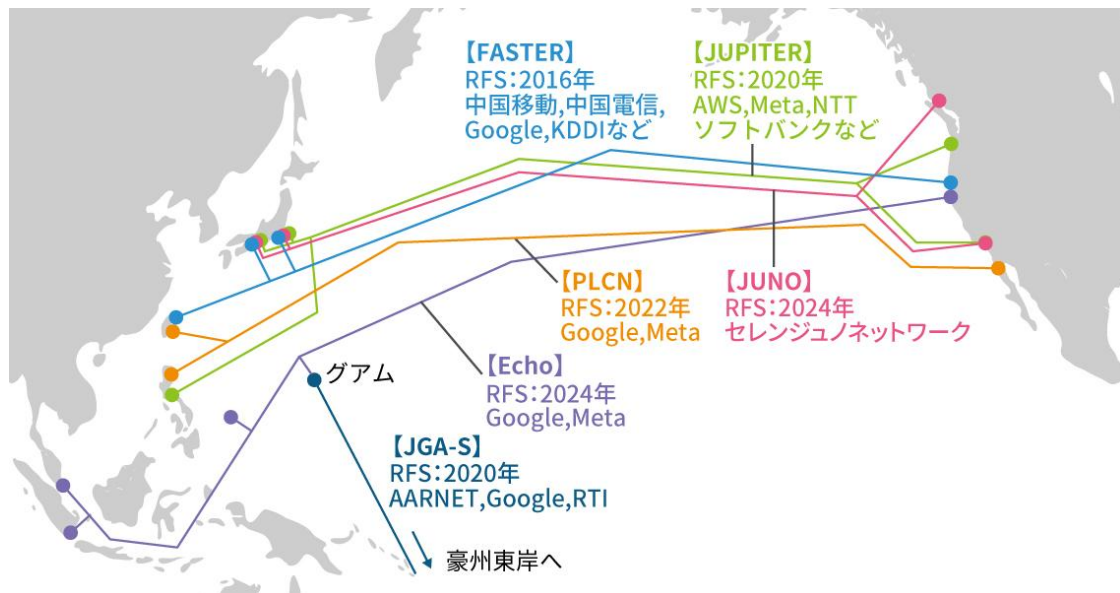
■ 対象市場

データセンター、オールフォトニクスネットワーク、モバイルネットワーク、NTN（非地上系ネットワーク）、自動車・モビリティ、医療など

3-15. 光海底ケーブルの敷設・保守用ソリューション

光海底ケーブルの敷設時と保守時の障害検知に対応

データセンター増設のために新たな経路での光海底ケーブルの敷設が、ハイパースケーラーによって推進



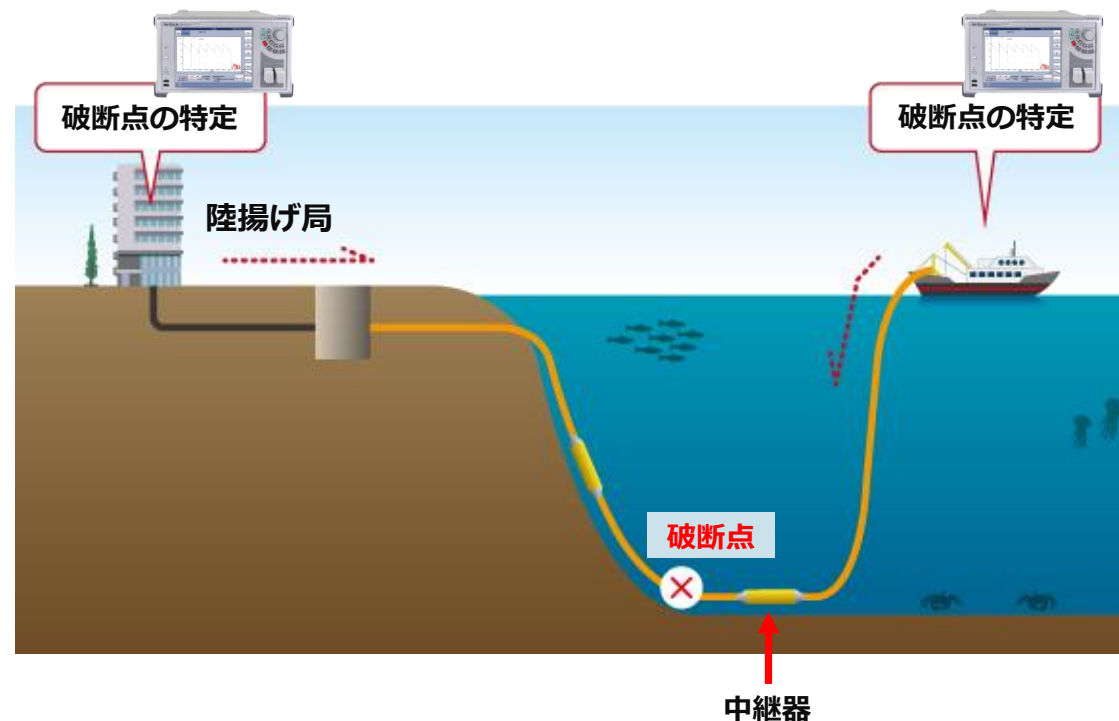
出典：TeleGeoGraphy「Submarine Cable Map」を基に作成



MW90010B
コヒーレントOTDR

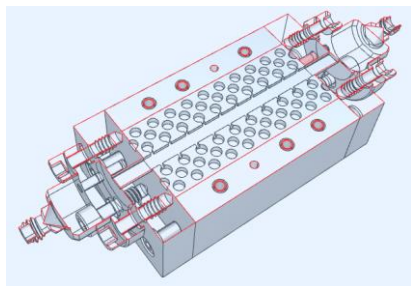
最大**20,000km**までの光ケーブルの障害を10mの分解能で検知
(日米間の太平洋海底ケーブルは10,000～12,000km)

ケーブルの敷設時は、陸揚げ局と敷設船の双方からケーブルの伝送損失や中継器の動作をモニタ、保守時は陸揚げ局側から障害箇所を特定



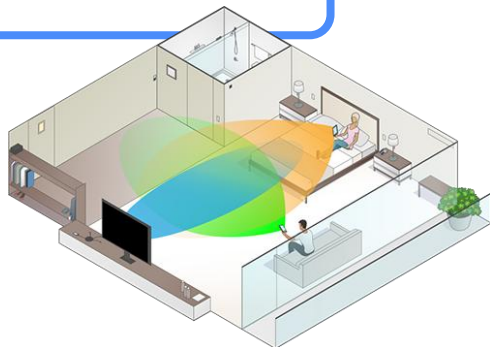
3-16. 6Gに向けてのアンリツの取組み

- 100GHz超のミリ波設計技術
- ~300GHz帯の受動素子の研究



ギャップ導波路

Full Duplex通信時の電波干渉の測定技術



5Gの10倍の
通信速度

5Gの1/10の
低遅延

消費電力を
現在の1/100



6G
アンリツ
の取組み

拡張性

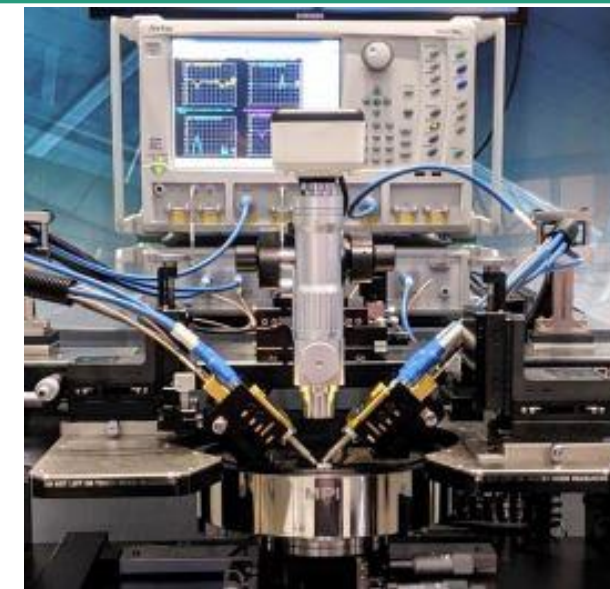
自律性

Beyond 5G/6G

材料、基板、デバイス、アンテナの性能評価

ME7838シリーズ

ベクトルネットワークアナライザ



■ 特徴

ミリ波拡張モジュール追加により、6Gに求められる330GHz帯の高周波試験に対応

■ 対象顧客

高周波デバイスの研究機関および大学、デバイスメーカー、素材メーカー、通信機器メーカー

3-17. 通信計測事業の成長ターゲット

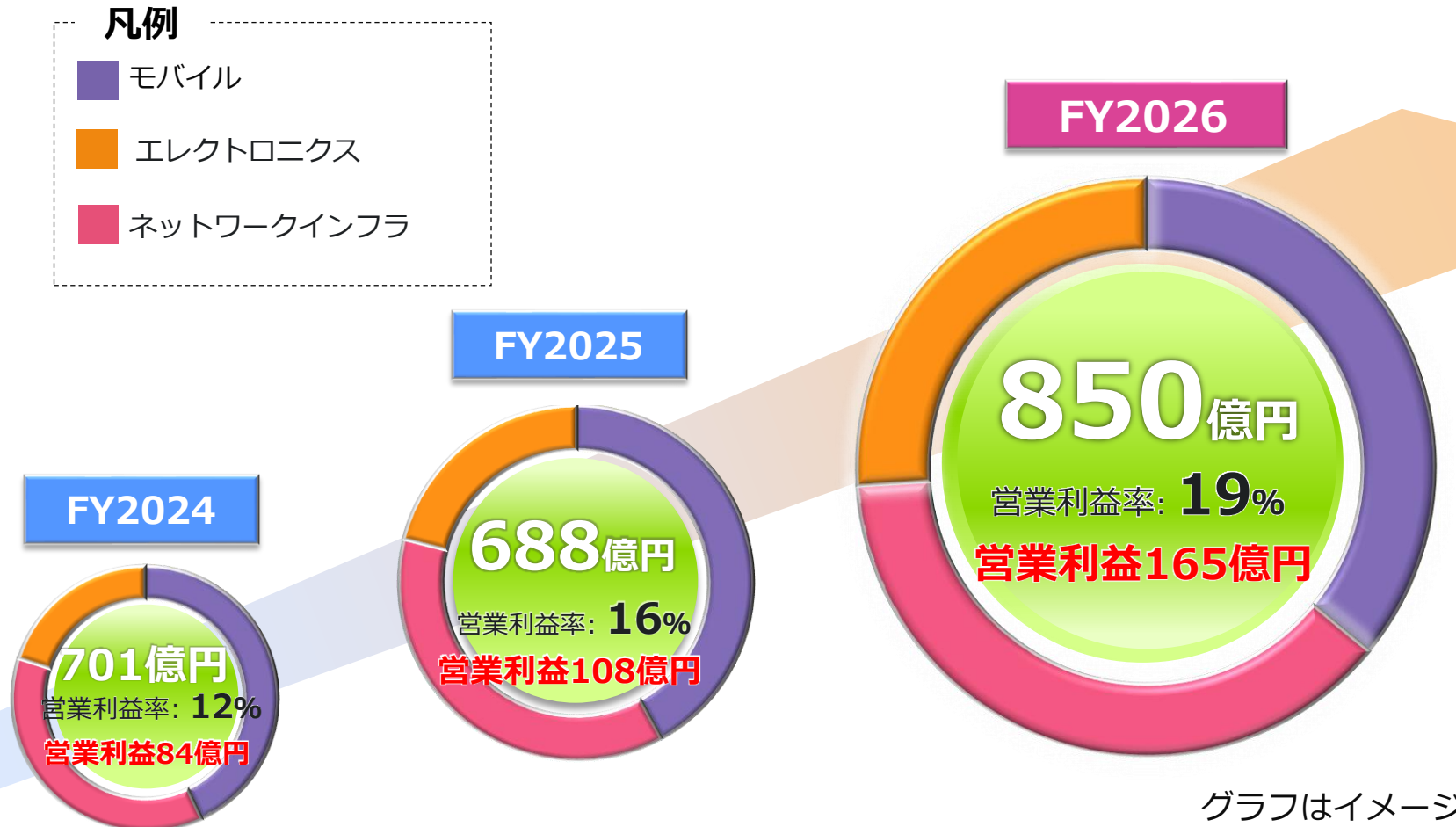
- ・ 生成AIによるネットワーク高速化（800GE、1.6TE）需要を獲得
- ・ ソフトウェアビジネスを拡大し営業利益を改善
- ・ 高周波帯向け通信計測器ラインナップの拡充とそれらに携わる技術体制の拡充（人材への投資）

FY2030

売上高 1,100億円

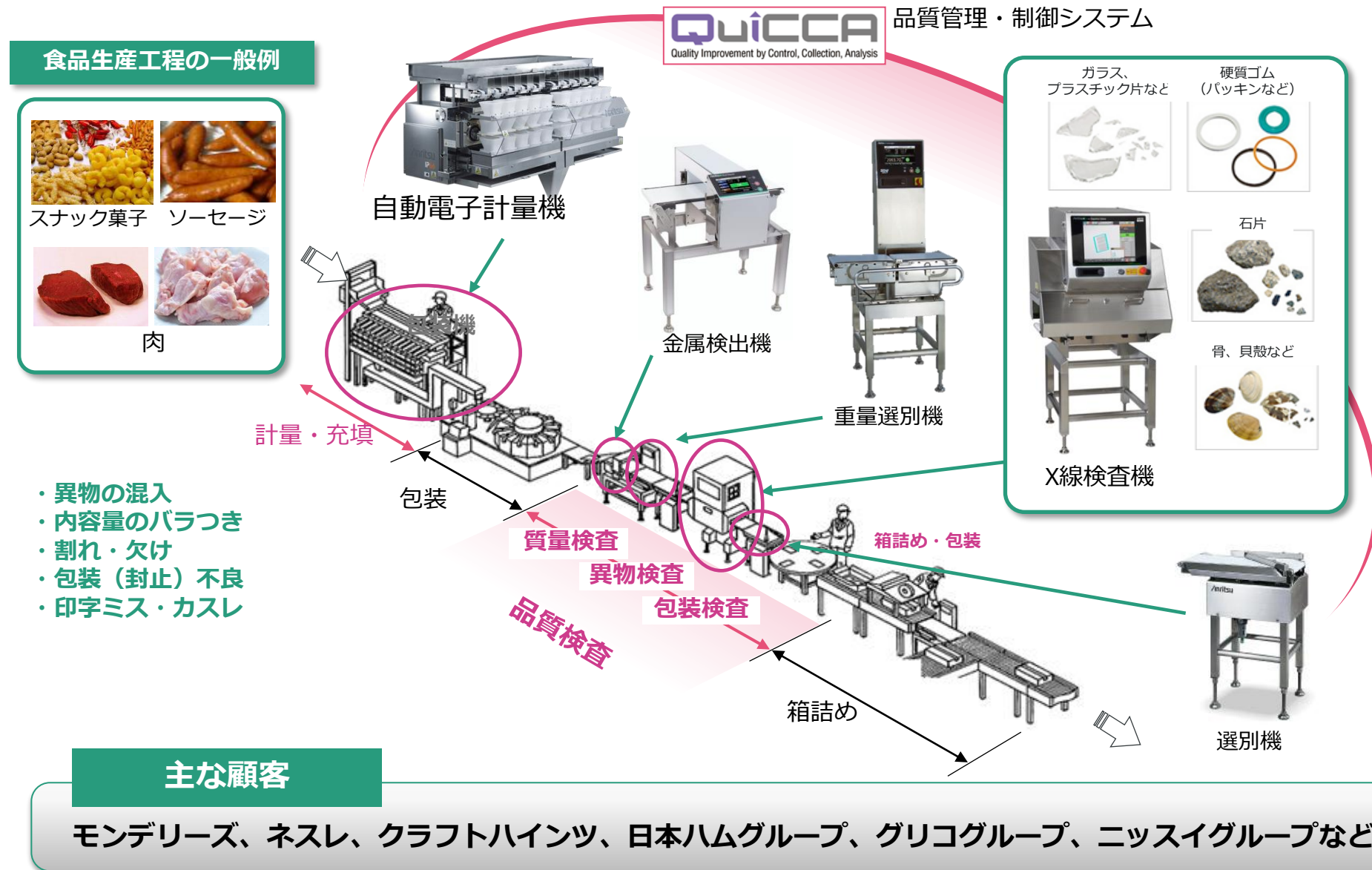
- ・ 6Gへ向けた取組
- ・ データセンターのさらなる発展
- ・ 完全自動運転の実用化
- ・ ソリューションビジネスの増加

通信の安全・安心を担保し、ビジネスモデルの変革を通じて、安定成長事業の実現を目指す



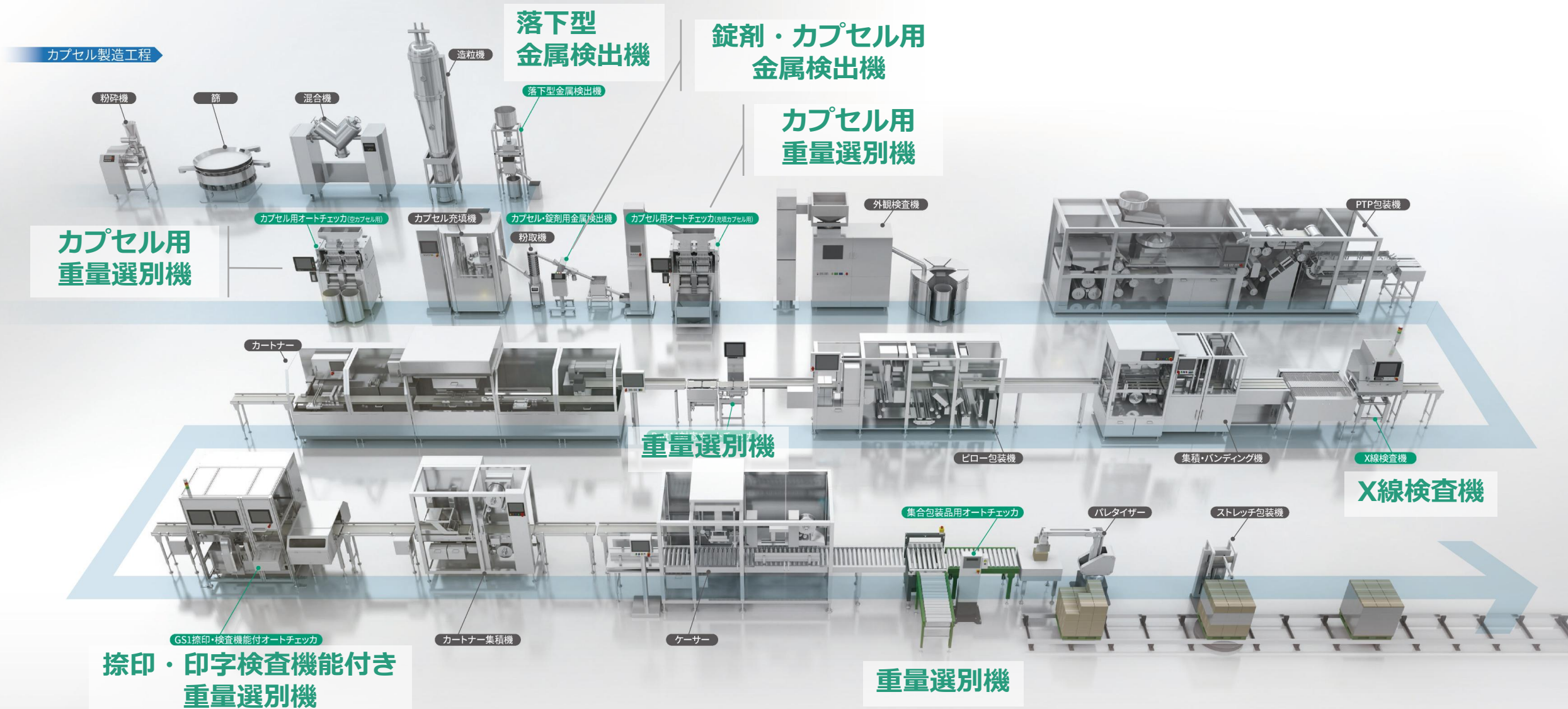
4. PQA事業

4-1. PQA事業 (Products Quality Assurance)

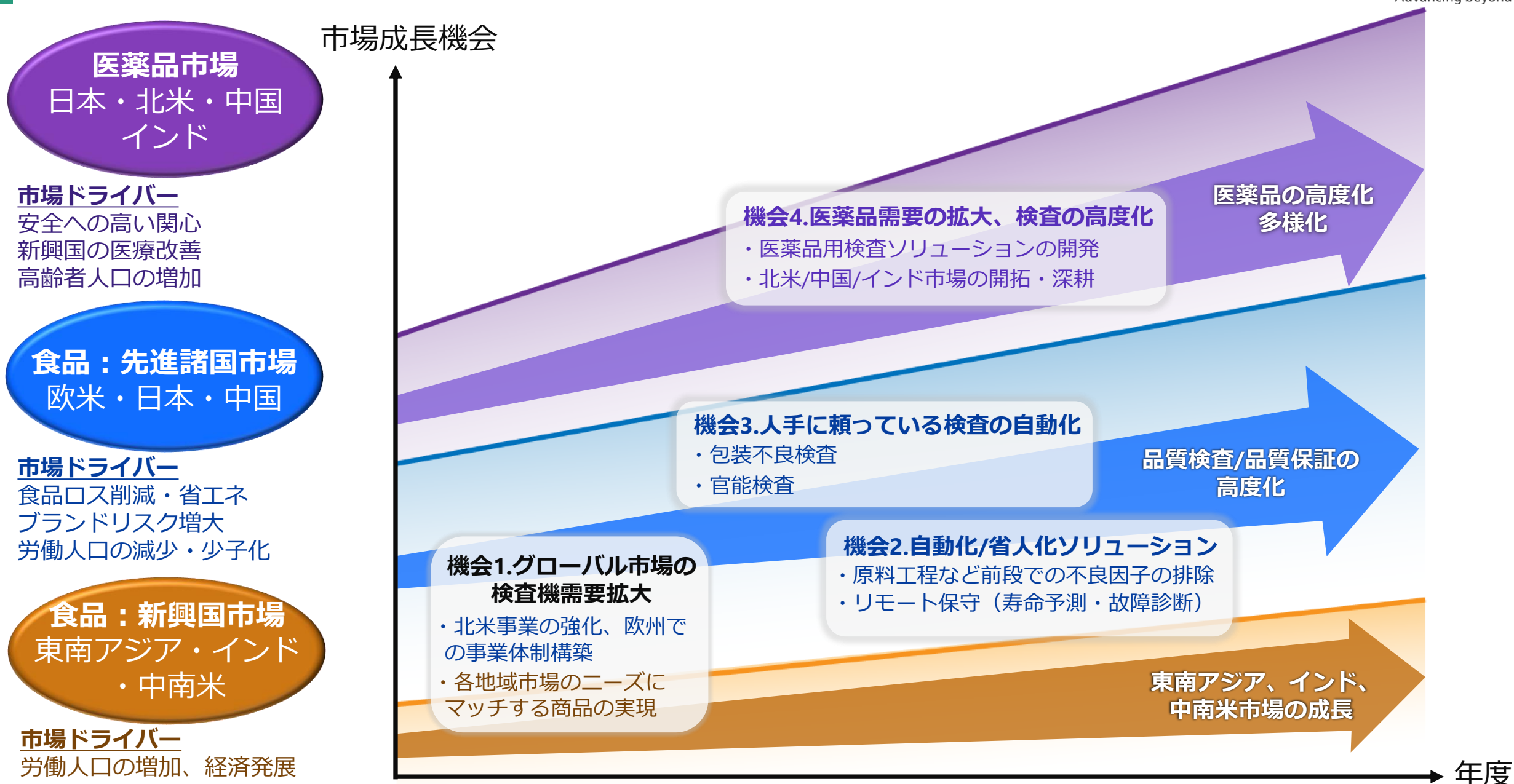


4-2. 医薬品製造ラインの導入イメージ

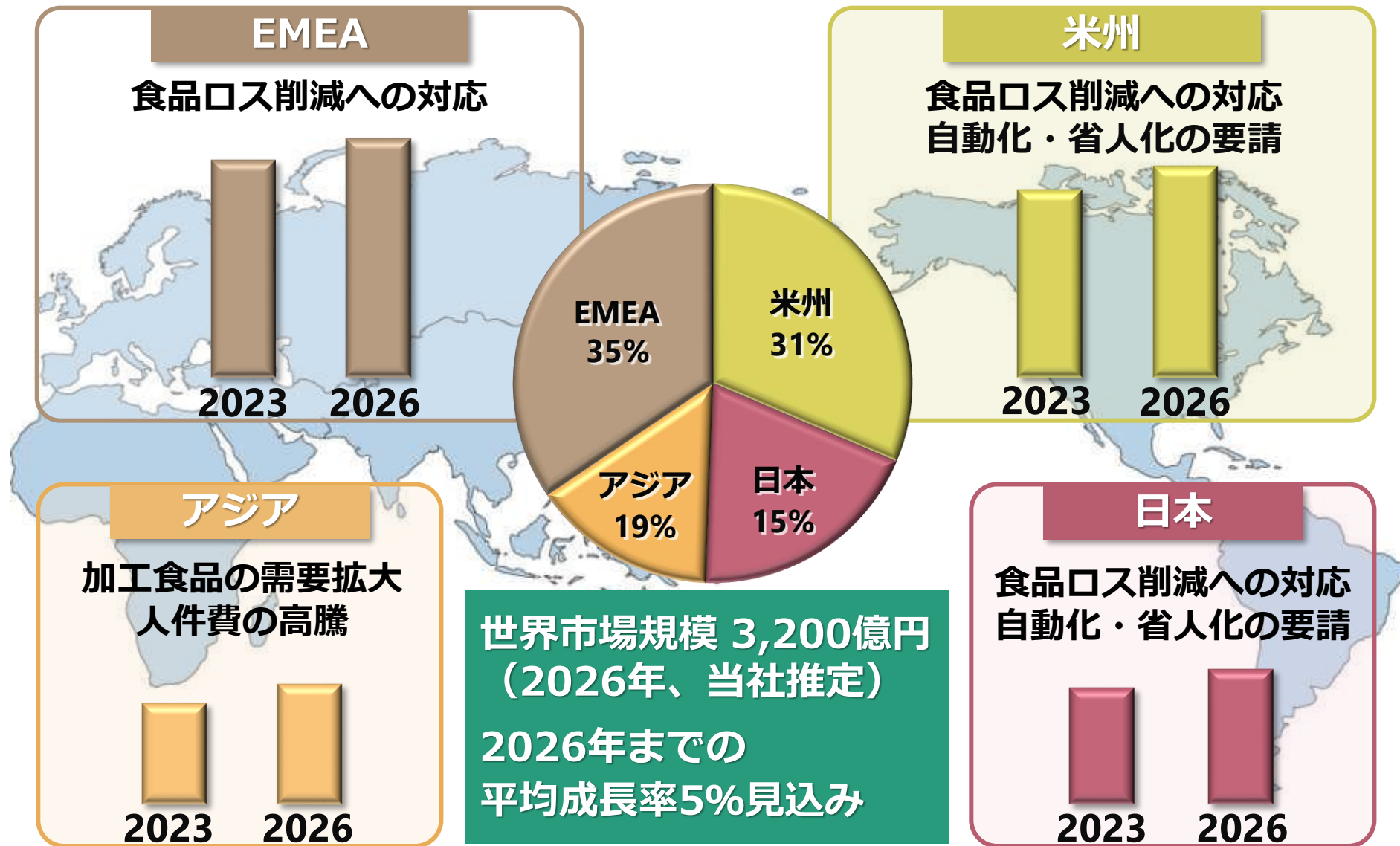
アンリツは医薬品製造の現場に対しても、半世紀以上前から品質検査機器を提供しています。大量かつ微細な医薬品の特性に合わせ、医薬品に特化した検査機をラインナップしています。



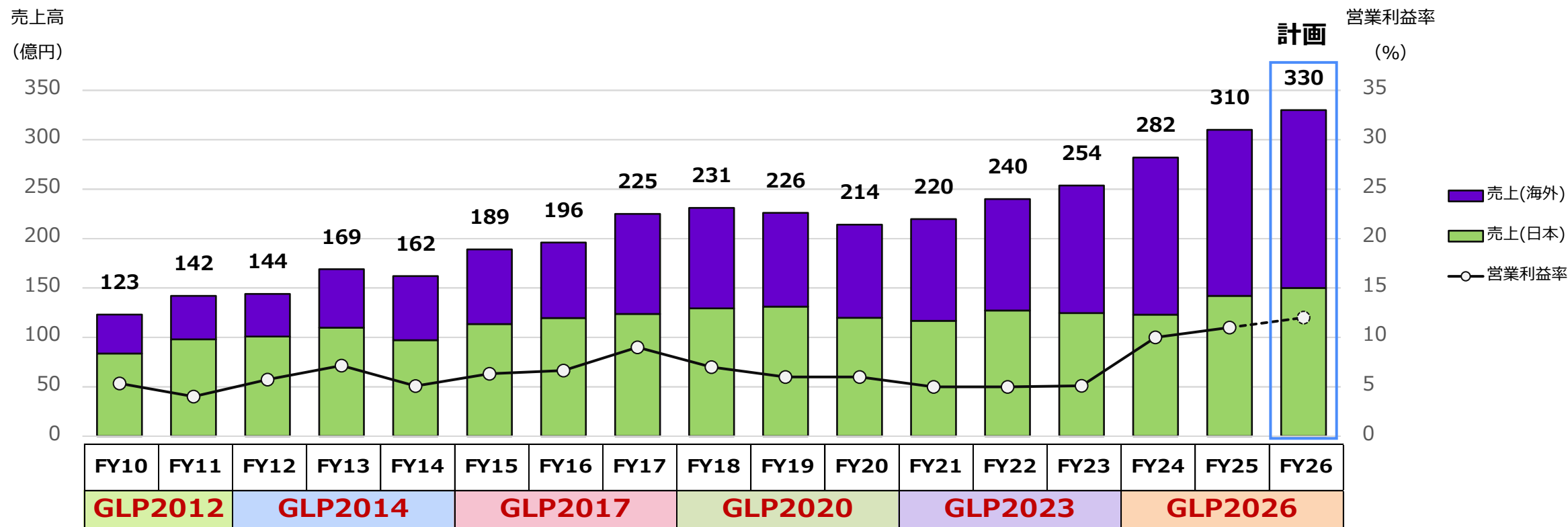
4-3. PQA事業：市場の成長機会



4-4. PQA事業：PQA市場の現状と見通し



4-5. 成長するPQA事業

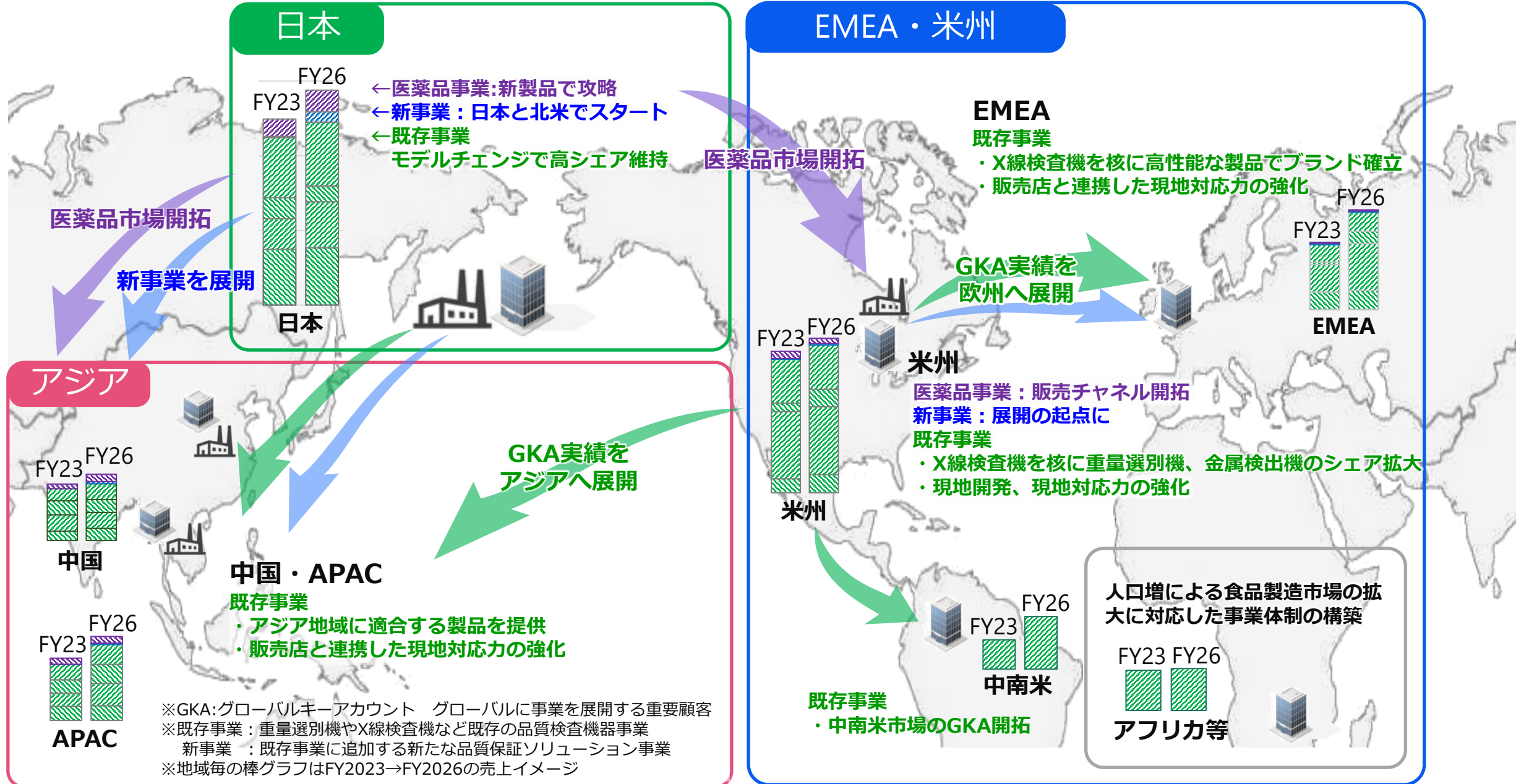


市場	主な取り組み
北米・EMEA・アジア	X線検査機をキー・ソリューションとした市場開拓
日本	最先端ニーズにこたえる高付加価値の品質保証ソリューションでシェア向上

主な競合

メトラートレド、イシダ、マレル

4-6. PQA事業：GLP2026 グローバル事業展開



省力化と品質管理強化を両立する「XR76 シリーズ」新型X線検査機

検査設定や誤検出品の再検査に多くの人手を必要としている食品検査市場に最新鋭のセンシング技術の搭載と操作性の向上を図った「XR76シリーズ」を投入することで売上拡大を目指す



■ 特長

- 商品をコンベアに一回流すだけで、検査設定が完了
- スマートフォンのような直感操作性
- 誤検出率を従来比1/7に低減。再検査の手間を削減し、歩留まりも改善
- 従来比で最高40%の検出感度向上
- 高速ラインでも安定検査
- 長寿命化によるダウンタイムの低減

■ 対象顧客

食肉加工メーカー、菓子メーカー、総菜メーカー、冷凍食品メーカーなど

人の嗅覚により行われてきた官能試験に対応、主観を数値化

においの情報化・可視化により、検査業務における被検査品の比較・合否判断をサポート
質の高い生産の維持、生産工程の検査員の負荷軽減、人員不足の解消に貢献

■ 特長

- ・ 最大で6サンプルを3分で測定
- ・ 付属のソフトウェアで効率的に自動測定
- ・ AIによる解析で分別し類似度を判定

■ 対象市場

研究開発：飲料や酒類のにおいによる分類
食品製造：スパイスなど香りの管理、日本酒の発酵度合い
品質管理：出荷後に寄せられた製品の異臭についての調査補助

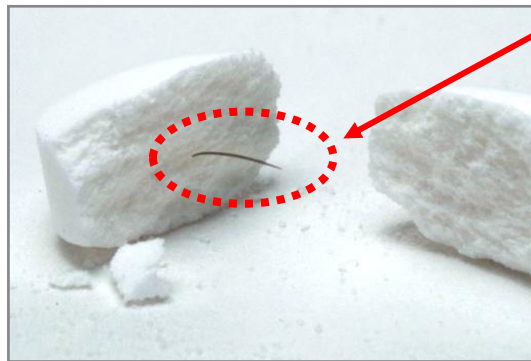


4-9. 製品紹介：錠剤の成分量を全数検査するNIR検査装置

NIR錠剤検査装置

NIR吸収スペクトル測定法により、錠剤内部を全数（25万錠/時）透過測定します。
生産品質のコントロールや、スケールアップ時のプロセス評価に適しています。

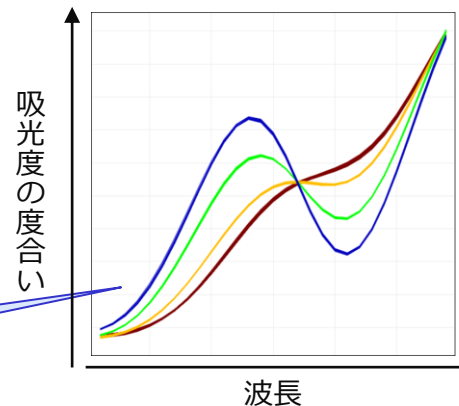
- **成分量分析**：非破壊で錠剤の成分量を検査します。
- **クロスコンタミネーションの防止**：異錠剤の混入を検出し、成分が異なる錠剤を排除します。
- **異物検査**：錠剤内部に混入した毛髪や虫などの有機由来の異物を検出できます。



混入した毛髪

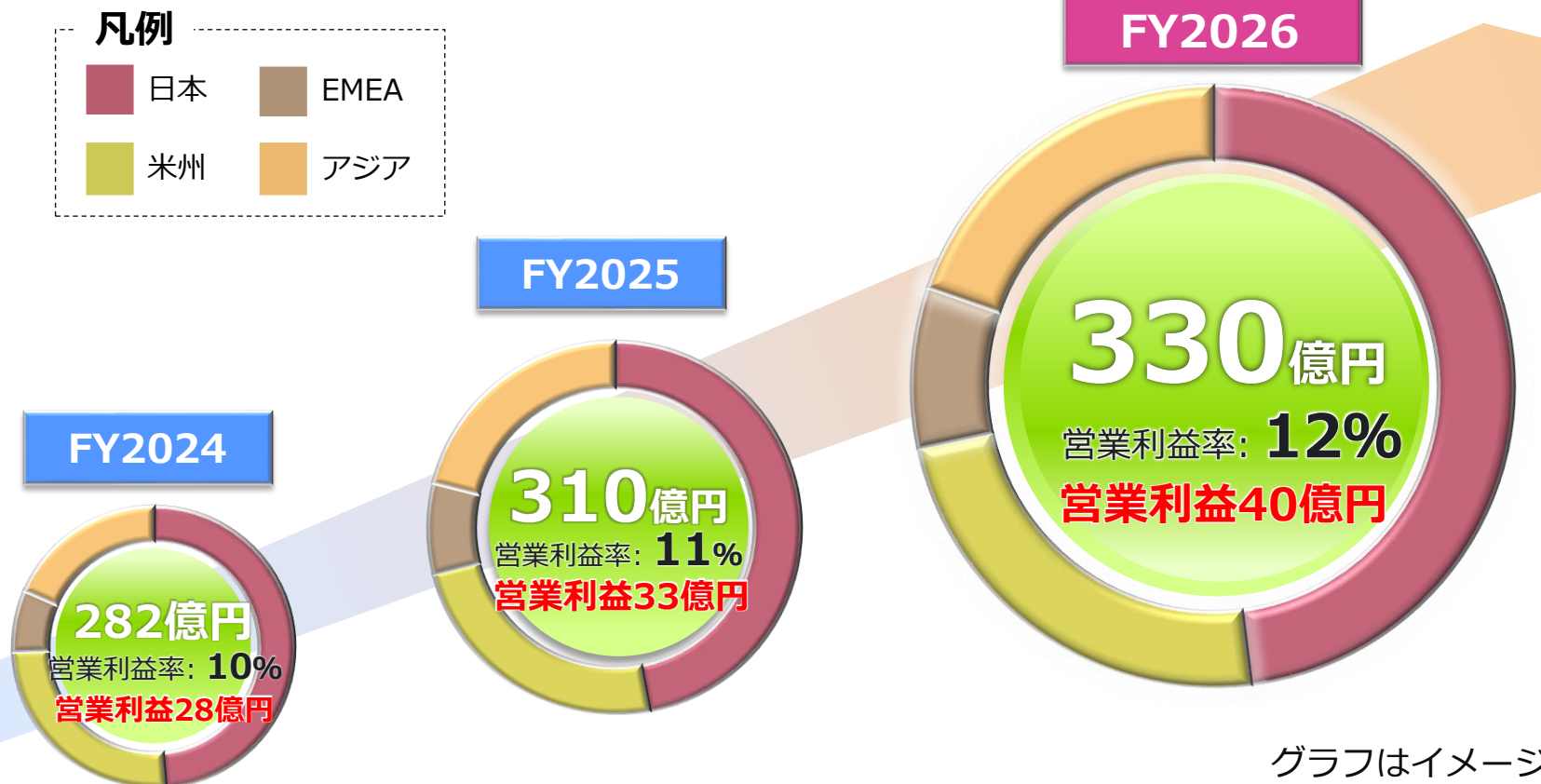
主成分が高濃度なほど振幅が大きくなる

NIR吸収スペクトル測定
(データ処理後)



4-10. PQA事業の成長ターゲット

- ・顧客価値の高いソリューションの創出：
AIなど先端技術の獲得、生産ラインの自動化・省人化
- ・高付加価値領域への事業拡張：
人手に頼っている検査の自動化、医薬品製造市場
- ・強靱な利益体質の構築：
サプライチェーンのグローバル最適化、業務プロセス改革



FY2030

売上高 500億円

- ・食品や医薬品の品質保証をグローバルにサポート
- ・省人化で人手不足を軽減し、お客様の収益性向上に貢献
- ・品質向上による食品ロス低減

持続可能な未来に向けて、
世界中のお客様から
最も信頼される品質保証の
First to Call カンパニーになる

グラフはイメージ

5. 環境計測事業

エネルギー制御と情報通信の技術で安全・安心に住み続けられる豊かな社会の実現を目指す

パワーエレクトロニクス事業

脱炭素社会実現への貢献



- 電動モビリティの性能向上と普及
- 内燃機関電動化の加速
- 再生可能エネルギー活用促進
- 脱炭素社会に向けたインフラ整備

ネットワーク事業

社会インフラの強靱化



- 社会インフラ監視の高度化
- 防災・減災センサネットワーク
- 金融ネットワークの信頼性向上
- 建設工事の安全性向上

ものづくりの効率化・省人力化



- ものづくり現場の情報高度化
- 遠隔監視技術による人手不足対応
- ローカル5G/無線LAN 活用促進
- 作業者動線分析/異常検知

パワーエレクトロニクス事業

高砂製作所の電源事業を核に成長を加速

《重点事業領域》

EVを中心としたモビリティの電動化と周辺市場

《事業戦略》

高砂製作所の電力制御技術と市場実績を基盤にソリューション展開を拡大

《主な施策》

- 電源システムのフレキシブル性を強化し多様化する試験ニーズへの対応
- EV/電池評価市場から周辺市場へのソリューション適用範囲の拡大
- EV普及で拡大する周辺デバイス市場に向けた製品ラインナップの拡大
- 国内事業で培った技術とノウハウを生かした海外市場開拓
- グループ生産拠点の連携強化による製品供給能力の増強



EV/電池試験や電源ビジネスのグローバル展開に向けた取り組みの加速

《FY2025の取り組み》

RZ-X2-100Kの北米展開の実現

- RZ-X2-100Kの北米規格対応および認証取得を2025年12月末までに完了する
- 通信計測事業の既存事業オペレーションを活用し、早期に販売活動を開始
- 北米市場に顧客基盤を持つ共創パートナーとの協業関係を構築

■ 対象顧客

- 北米自動車メーカーおよびそのサプライチェーン
(自動車部品メーカー, 受託試験業者等)
- 多様なモビリティ(二輪, 建機, 農機, 航空機 等)の電動化を目指すお客様

MEDT
Mutual Energy Drive Technologies

**双方向電源
RZ-X2-100K**



MEDT : Mutual Energy Drive Technologies(相互にエネルギーを融通する技術)を意味し、フレキシブルで動作範囲の広い電源ユニットを高度に制御することで、多様な大容量エネルギー制御を実現する当社のコアテクノロジーを示す独自ブランドです。

ネットワーク事業

社会の安全・安心を守る通信インフラの次世代化に貢献

《重点事業領域》

品質と安定性が要求される公共性の高い情報通信システム市場

《事業戦略》

高い技術とノウハウで通信インフラ設備の円滑な次世代化に貢献

《主な施策》

- 社会インフラ保全ネットワークのフルIP化ソリューションの提供
- 自然災害への備えを支援する分散型遠方監視システムの開発
- クラウドに対応した帯域制御ソリューションの投入



5-5. DEWETRON社の株式取得完了

2025年10月21日 株式取得手続き完了

2025年11月より 連結対象

2026年 1月 8日 国内販売開始



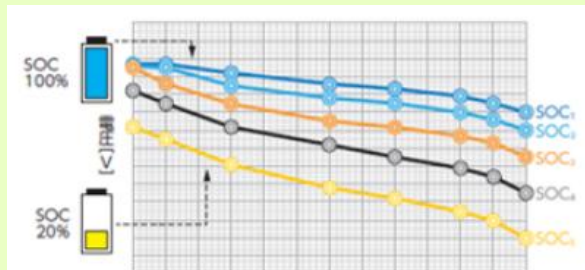
社 名 : DEWETRON GmbH (デヴェトロン)
所在地 : オーストリア、グランバッハ
設立日 : 1989年 8月 18日
資本金 : € 500,000
主力製品 : 電力計測器およびデータ収集システム
対象市場 : 自動車、航空宇宙、再生可能エネルギー



5-6. パワーエレクトロニクス事業：EV開発評価における用途

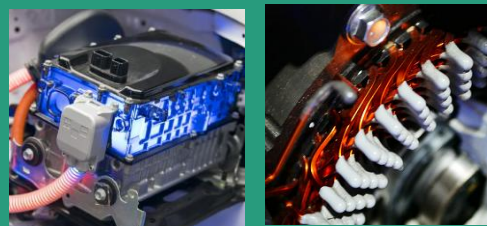
EVの安全性や性能の向上に欠かせない評価設備を供給

【電池模擬】



走行
⇄
回生

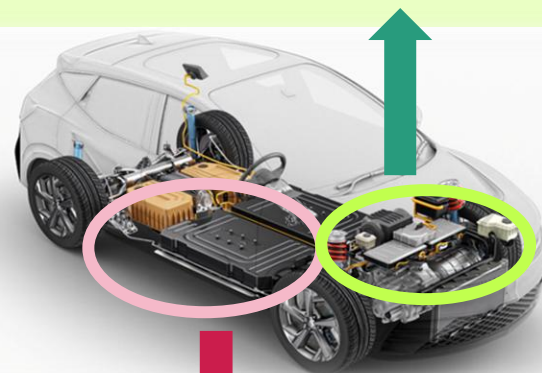
パワートレイン評価



- ◆ 電圧・電流
- ◆ 回転数, トルク
- ◆ ロータ位置
- ◆ 温度
- ◆ 振動, 騒音
- ◆ ねじれ, 歪み
- ◆ インバータ制御信号
- ⋮

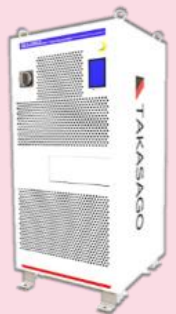


高砂製作所



DEWETRON

【走行/充電模擬】



放電
⇄
充電



電池評価

- ◆ 電圧・電流 (セル/モジュール)
- ◆ 温度 (セル/モジュール/周囲)
- ◆ 振動, 騒音
- ◆ 絶縁抵抗
- ◆ バッテリー制御 (BMS) 信号
- ⋮

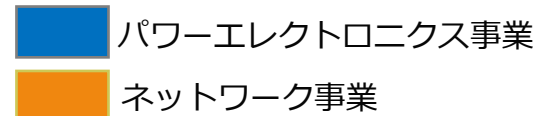
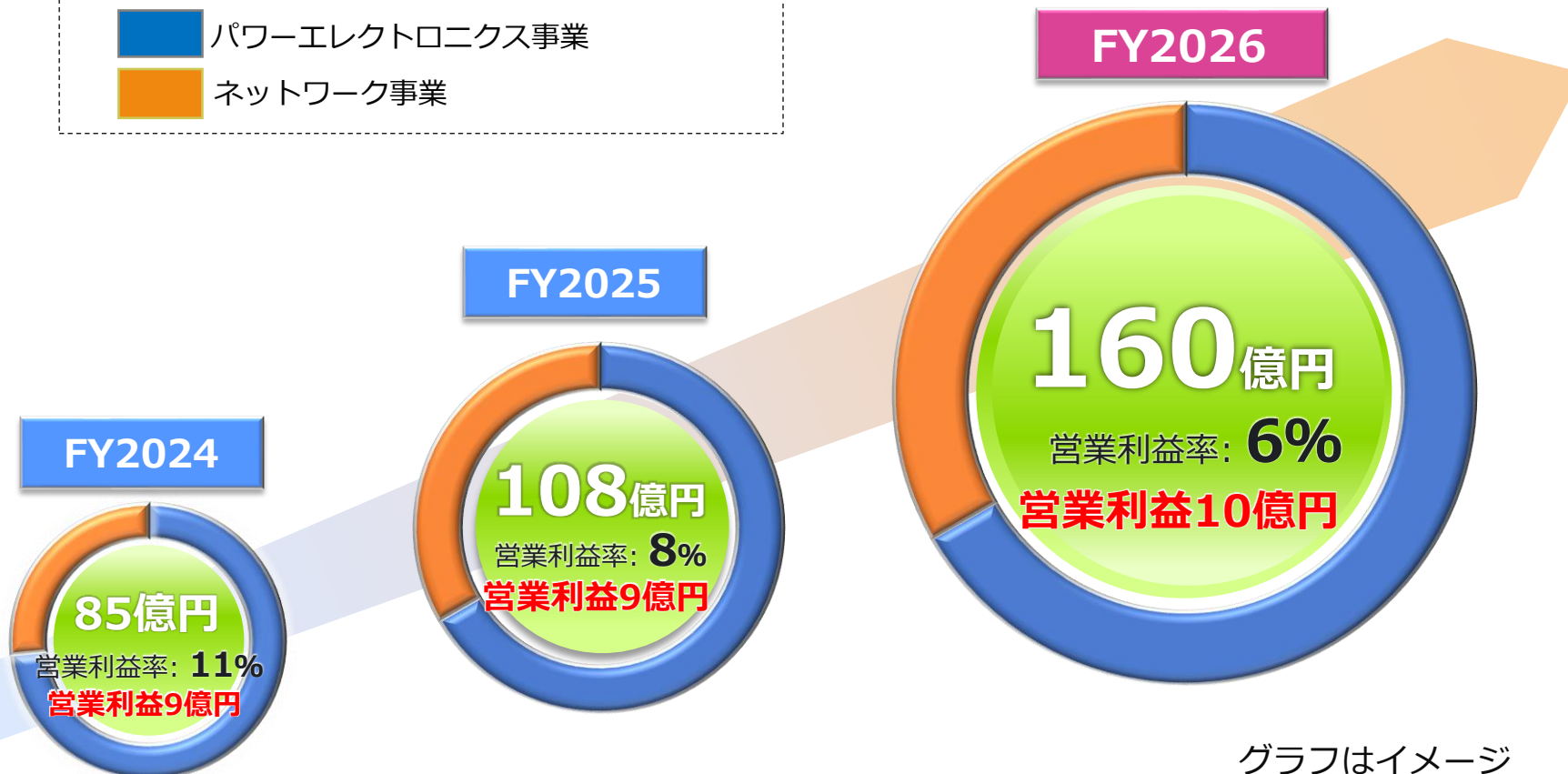


5-7. 環境計測事業の成長ターゲット

- ・グローバルな事業展開の加速
- ・高砂製作所/DEWETRON社とのシナジー創出による市場開拓の加速
- ・パワーエレクトロニクス分野でのリーディングカンパニーを目指す

FY2030

凡例



売上高 300億円

- ・ 災害に強い街づくりへの貢献
- ・ 発展するものづくりへの貢献
- ・ モビリティ電動化への貢献
- ・ 再エネ活用拡大への貢献

グローバルで活躍する
パワーエレクトロニクス
企業として持続可能な
社会の実現に貢献

グラフはイメージ

6. 2026年3月期 連結決算概要

6-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比 増収増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	1,126	1,246	120	11%
売上高	1,130	1,175	45	4%
営業利益	121	148	27	22%
税引前利益	127	161	34	27%
当期利益	93	117	24	26%
当期包括利益	78	148	70	90%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

6-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 前年同期比で、通信計測は減収増益、PQAは増収増益、環境計測は増収減益

(単位：億円)

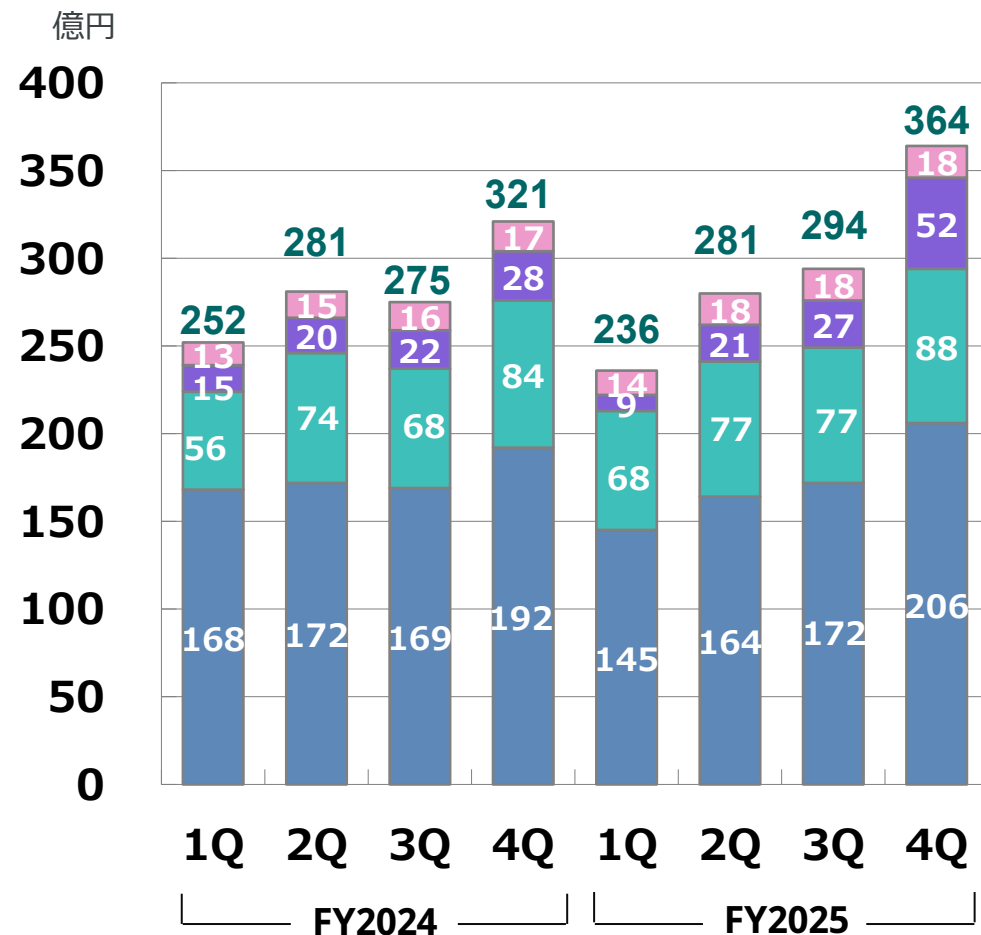
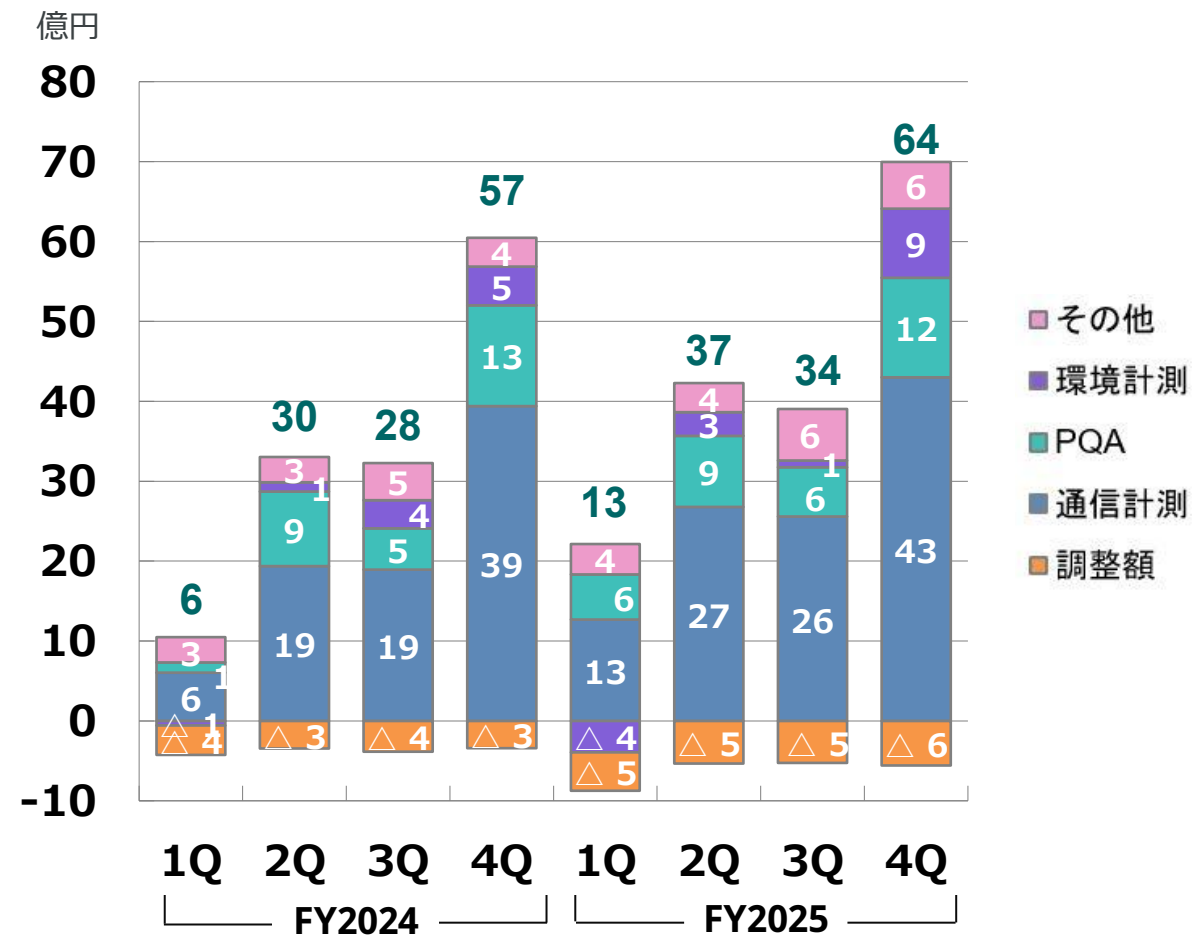
国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	701	688	△ 13	△ 2%
	営業利益	84	108	24	29%
PQA	売上高	282	310	28	10%
	営業利益	28	33	5	17%
環境計測	売上高	85	108	23	26%
	営業利益	9	9	△ 0	△ 5%
その他	売上高	61	69	8	13%
	営業利益	15	20	5	35%
調整額	営業利益	△ 14	△ 21	△ 7	-
合計	売上高	1,130	1,175	45	4%
	営業利益	121	148	27	22%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

6-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 4Q(1-3月)営業利益率：通信計測 20.8%、PQA 14.2% 環境計測 16.7%



(注) 値はそれぞれで四捨五入

セグメント 2026年3月期（4-3月）の状況

➡ 通信計測：米国関税政策の影響で延伸していた顧客の投資は回復
世界的な物価、人件費上昇等で止まっていた設備投資が再開も、
投資への慎重姿勢が継続

モバイル	5G開発市場の投資は不安定 5G利活用市場では自動車やNTN、Wi-Fi 7の需要が継続
ネットワークインフラ	生成AI用のデータセンターの構築・高速化が加速 光海底ケーブルの敷設が増加傾向
エレクトロニクス	ANS*関連の需要が北米と日本で増加 PCIeの研究開発需要が引き続き好調
アジア他・日本	中国の5Gスマホ開発市場の投資停滞 データセンター市場の顧客の投資は好調
米州	データセンター市場の顧客の投資は好調

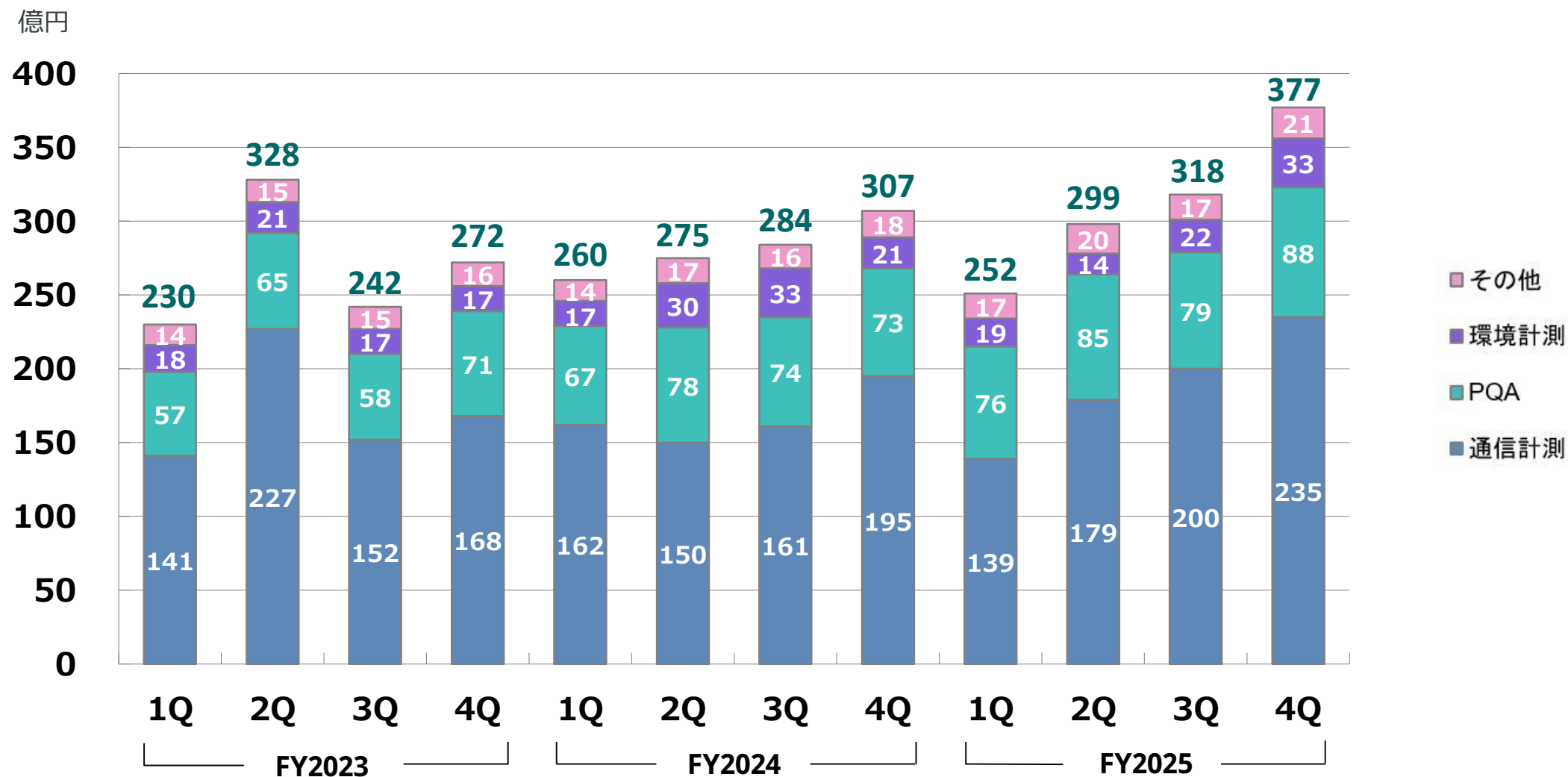
*ANS(エアロスペース&ナショナルセキュリティ)

➡ PQA：全地域で好調。特に国内のインバウンド関連需要が好調

➡ 環境計測：EV/電池向け試験装置需要は調整局面

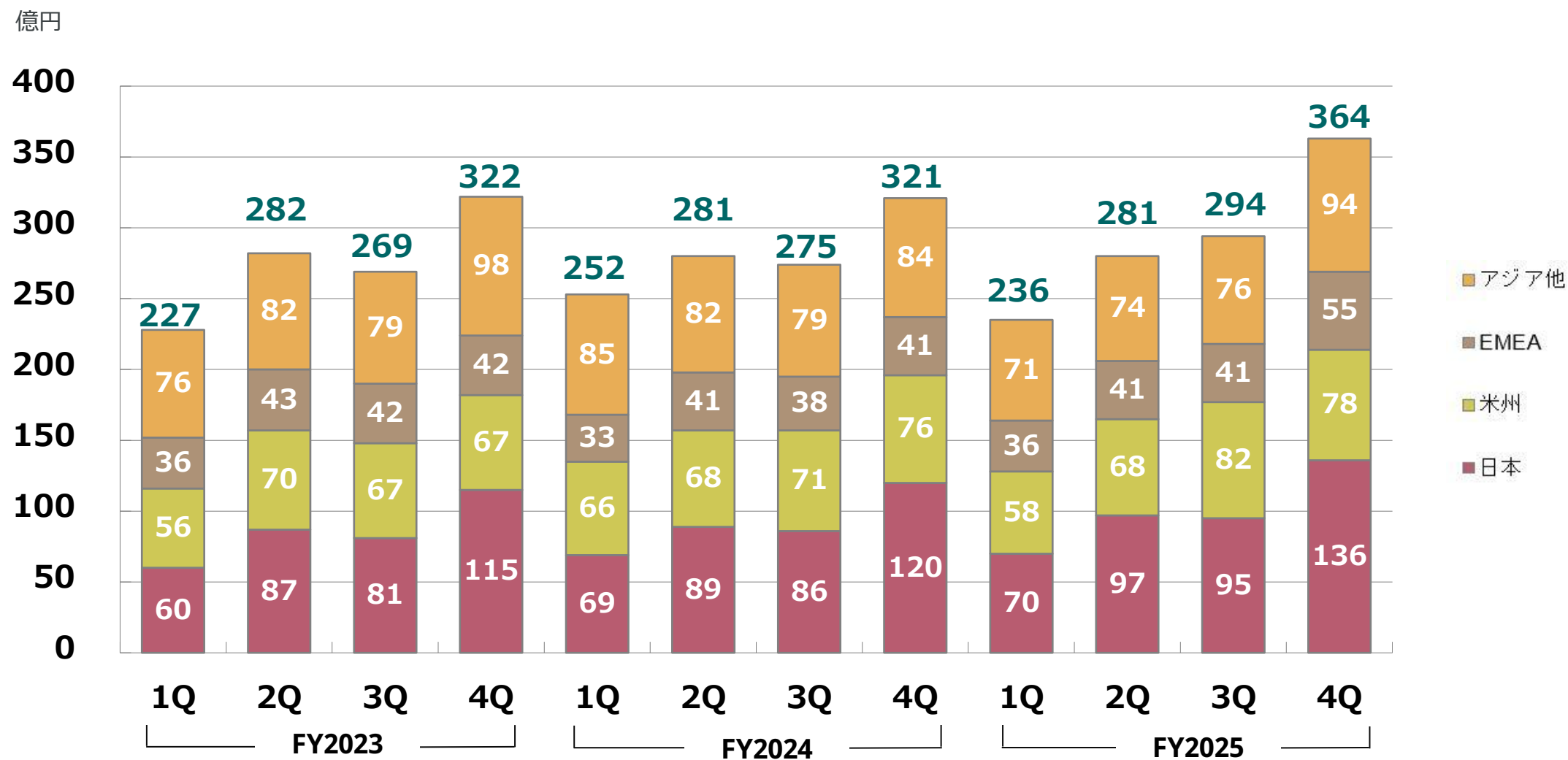
6-5. 受注高推移

▶ 4Q(1-3月)受注高：前年同期比 通信計測 20%増、PQA 21%増、環境計測 57%増



(注) 値はそれぞれで四捨五入

6-6. 地域別売上高推移



(注) 値はそれぞれで四捨五入

6-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率 15.2%

FY2025

- ①営業CF： 179億円
- ②投資CF： △147億円
- ③財務CF： △64億円

フリーキャッシュフロー

(① + ②)： 32億円

現金同等物期末残高

493億円

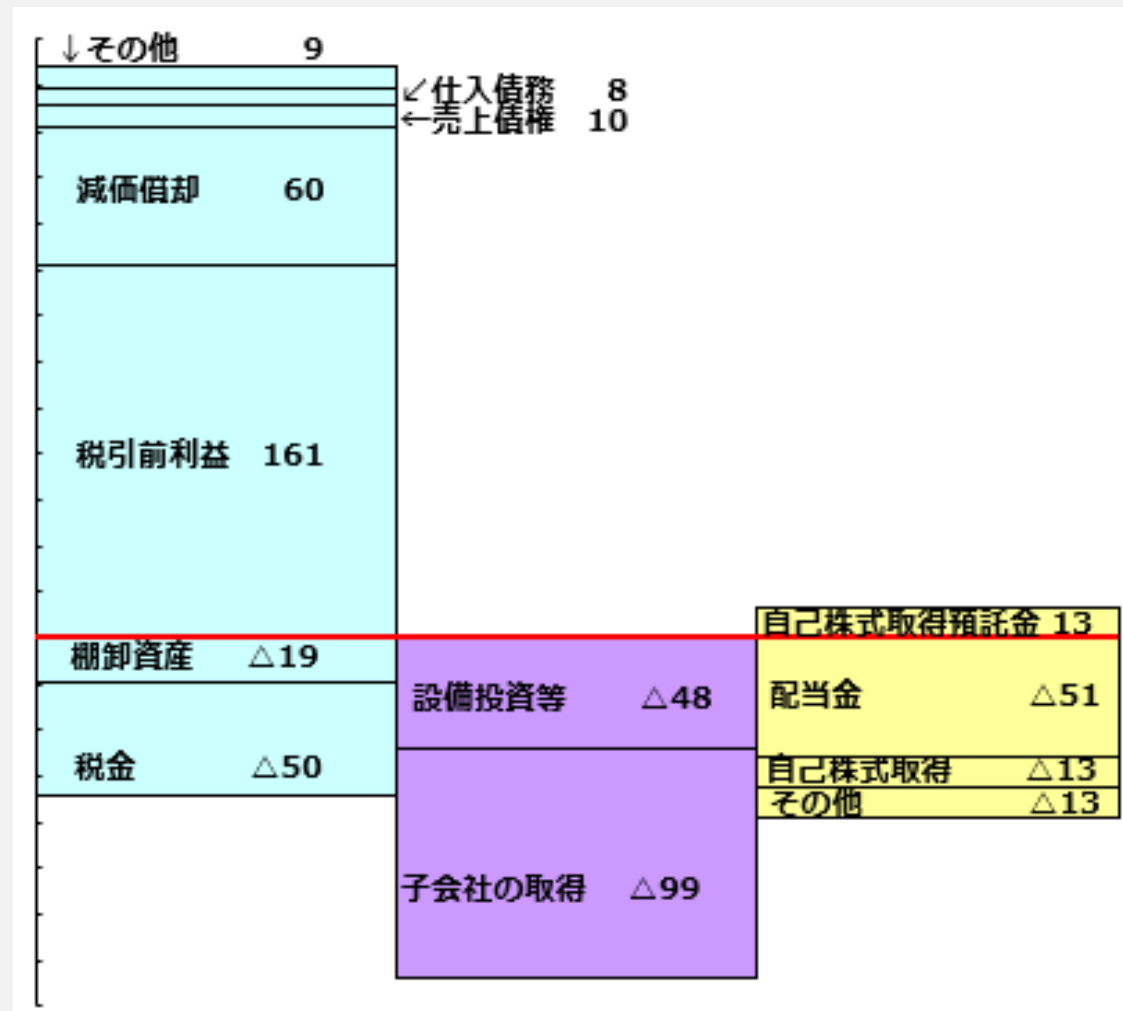
有利子負債高

68億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位：億円)



営業CF 179

投資CF △147

財務CF △64

6-8. 2027年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 通信計測事業、PQA事業、環境計測事業で増収増益を狙う

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)			2026/3期	2027/3期	
			前期実績	通期予想	前年同期比 増減額 前年同期比 増減率(%)
売上高			1,175	1,400	225 19%
営業利益			148	200	52 35%
税引前利益			161	200	39 24%
当期利益			117	150	33 28%
通信計測	売上高		688	850	162 24%
	営業利益		108	165	57 53%
PQA	売上高		310	330	20 6%
	営業利益		33	40	7 21%
環境計測	売上高		108	160	52 48%
	営業利益		9	10	1 18%
その他	売上高		69	60	△ 9 △ 13%
	営業利益		20	15	△ 5 △ 24%
調整額	営業利益		△ 21	△ 30	△ 9 -

（参考） FY25 為替レート
FY26 想定為替レート

： 1米ドル151円、1ユーロ175円
： 1米ドル150円、1ユーロ175円

（注） 値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

